めのわらは 旧本今昔廿一 書ノ姫ニ云

めのこ 勢語八十七段 つとめて其家のめのことも出て浮みるの浪によせられたるひろひて

めんく 遂信云中務内侍記 清涼殿本ニ めんくに △正武云平語十二 平大納言被流業式ハ

東せんおもむけて行かれけるに法の侍の上達部ハつらさとおもへ守云こ面にあひしてけれはんの

内折ハ行けれて ありけり

女児 メノコ 白雪ニ新しとみえんとするに若き人目もいとなりける めわらはやあらんと

目さとく なりけり 蔵 遠江寺記 扶桑八

女親 メオヤ 枕三十九段 親のつとめなる 十二日ほとこれを見しめわらや △月十廿七 謂ふ人にそれ

おとなめわらや たまへる △蓑廿五 只めわらはをおきたまへるこちして △澪四十九 御心にすみの

むへき思ひとりて ものひとたにめわらはなるなれ ほかにいとあはれなるをかに社行きめれ △

蔵一 めわらはおいせぬ世にきりし人しりてかれ給ふんと思ひ候

めくらき 蔵二下廿七 人にそ思ひたまふ目をくらきされハ先 まうけて △蔵中十八 み

すのうちに居たまふ御かほは上八十あまりに御目くらきまうけたまへる △夕点十一つ給

ろひめくらき △枕四十八 ろうさする行ものすみのそきりとかめいふ宮とやめくり いそけ

む △勢語五十四段 よきほとのあるも人にめくらせしたらの宮に △若上七十五 宍

めくらし手あくいけれともうとあつかふ △項羽本記 須史梁胸籍 メクハセス △離騒 目成 メクハセ

目をくらる 枕十二 女ニ 僧ノめくらくさくて清みたる社殿かるん思ゆれ

目口はたる 宇治十三 十六ウ 増賀 上人ハ六めくちはたりてそ思め

めくり 蓬 廿九 なかむる宮のへの人ハもそめくりてさとの常 △椋五十二 此れめくり

まし人の御くるまなれハ △蓬五十 給ふれそちかる めくりの垣 △幻八 △若下五十九 △蔵上四

めくり水比豊のあかり 顕宗紀 十二 三月上巳幸後苑曲水宴 カミツミノヒニミソノニメクリミツノトヨアカリキコシメス シタマフ

めくりあそ 於雑上 橘直幹 ある人のまもりにきこなるに めくらす月のめくり宴と △正六 五十二 勢語

十一 慢三義

めくりなる嵯峨 いにしへのめくりなるをかにくらきけり

めくる 兆代上四 陽神左旋 メクリ 陰神右旋 ル △椋廿八 蹈舞 ノホ まうけの清らなる人にめくる社にお給ひぬ

里めくり 清正集十八 里めくりしすてあるぬ時る人の人をかなりて

めくる 万十七 廿八 大伴田主 女郎か浮るるのへよぬ米具利 わらと思ひ思ひめくりあそひ △

兆代下十三 周流 メクリ 夕廿四 みめくりまするとおもひやいゆくさ △椋廿一 か月のもとの中にめくりて

めくらひ 玉九 六ツ わらに 十り 監ニ 何くせんかはけと たと世界にハめくらひとんや △若七十九 十三 ひとけれハおもへ

よの中にかうちまめくらひ給へれと △あなけりの人のおもまそいはめくらひ △椋廿一 十三 かなそへハ

いそく根あん 浦蔵も思へりめくらひ玉へんとてふ

目くる 夕廿三 めくれかまた思ひし行みゆ しをう思へ △椋五十四 出たるりのめくらすらちすたれ △衣

珠九 僧都のうへ清目も くわれて ひとりそま うれは

目くるめく 清和五九段 目くるめく給椅 危花給ハ 柱のわれに出しかれ給はれかそ 寸

目くそ 蔵二 ねらかりけれハ めくそとちあひそり

めくらかし 蓬 十八才 十二 祭元 太子文母 蓬ノ 此廿八本 奴ノ 清らかちもようかゝ 深くせさせも人くもそうし

きかきやうとて德やめくらし 侍もそ御かりて思ひ給 △嗔車ノ乡町十キ貼シニ叶ヘリ △抄供奉ノ人ナドヲツレメ

クラサル也 △松十六 六九 ちかく御賀り給わかろへとめくらし 侍るる △河以廻文人々ニ被仰心欤 △抄只人々

被仰ナナルヘシ

めくらふみ 蔵下五十六 五四 すへて世人の声きを社にハ見えされ一とちかにハ 侍るる恋をたるわりきき

めで[illegible]遊ばさむ △月廿二 [illegible]
集むる [illegible]
[illegible] 万十七 廿三 [illegible] 米具美 [illegible] △東十六 廿三 当時の
[illegible] △玉七 [illegible] △古今 序 [illegible]
[illegible] 山の [illegible] △土佐 廣き [illegible] 山の林 [illegible]
同 [illegible] 詳 源 廿四 [illegible]
[illegible]
同 [illegible] 体め 図下廿九 [illegible]
[illegible] 竹川 廿九 [illegible] △和秋上廿八 △菊 下廿一
△落三 △桐九 △円十 △夕十六 △東四 △蔵 [illegible] 十四
めでたけ 様々 八 [illegible]
[illegible] 詳 源 [illegible] 社 [illegible]
同 [illegible] 東 四三 [illegible]
馬頭吉祥 盛衰 廿七 [illegible]
[illegible] △円廿六 五十八 仲国小督ヲ尋ネ出 廷尉 [illegible] 吉祥 [illegible] 二三人 [illegible]
謹慎 [illegible] △貞観儀式十 飛駅儀 左右馬寮官人将馬部一人亦被
鞍馬候於閤外
妻子 万五卅 貧窮問答長哥 父母は [illegible] 妻子 [illegible] △円十八 廿五 父母
[illegible] 妻子 [illegible] △[illegible] [illegible]
[illegible] 父母 [illegible] △[illegible]

図 [illegible] △和秋下 八六 廿二 [illegible]
[illegible] △蔵下 四三 天女 [illegible]
[illegible] △竟宴 [illegible]
用 [illegible] 杉窗 十四 [illegible]
[illegible] 大鏡上廿二 九 良少将大刀 [illegible]
[illegible] △竹川 十二 董退出後 [illegible]
[illegible] 源 七 [illegible]
[illegible] 処十 [illegible]
[illegible]
めで[illegible] 後下廿七 [illegible]
目に[illegible] 和秋上 五一 蔵壷 [illegible]
目ざと 枕八 [illegible]
[illegible]
めで[illegible] 菊十七 [illegible] △夕七 △帚廿六 △円卅
図 [illegible] 歌詳古今 [illegible]
△[illegible] △若木七九 △玉十八
同 [illegible] 古 [illegible] 世波 懐旧 [illegible] △行 竹川 二 [illegible] △非 [illegible]
[illegible] 濱臣云 △夫廿四 十八 河 [illegible] 催馬楽 竹河 河内 或
大和 伊勢 元名 竹川の [illegible] △濱臣云 字鏡 廿五 廿六
十

髪 疑也目佐志又 髫小児 疑目佐志〈狭三上廿六〉めち
忍寝下 〈神中二 我れ
ひおもふ
目こす 今昔廿六廿 目差モ不知暗キニ
めもきりて 帰罵ちゝ目もくりて〈夕壹廿五学〉
きうくく 〈狭下弘〉めゝみ
めぐみ狭一下廿三 ほこと〈廿七〉
めゝひ 押あけて
めし 精廿五心 薫〈廿三〉
ねもけて 〈月廿三〉
目ふみも〈 四中廿八古事記 〈萬壹〉
差下狭 こゝ
社

於雑上 清慎公月林をふまりけるに
お 林のもと月をめに
おもひ 〈相廿九〉
めくるも 其人計ヲ校テ此方ヘ召ニ寄ムト也 〈玉廿二〉
〈漁ノ右近ヲ人ノ知ラスヤウニサシノケテ語ラヒ 玉ノ下也 〈古梅十五〉

次呼〈抄是ハ源氏院司ぞ也〉宇治九九 清文條 平安朝ヲ中心ト
仕 延喜式十八弐 部上廿九 凡大・改大臣ノ台使
同 凡大射者預點召使四人擬執旗〈月十三内蔵寮ニ喚使二人〈靖日一五〉
〈大浦下百四十四七九〉

此 〈若紫二九〉
給 木川廿一 〈宇治四十三〉 雑子ノ毛ヲムシル処ニ
目押 〈三ノ下〉 目押ヲリテ
百次 〈古木廿五〉
〈云首昏委悉注見〈柏木十二〉 〈河廳
清文條 平安朝ヲ中心ト
仕 延喜式十八弐 部上廿九 凡大・改大臣ノ台使者取散位年廿九以下有容儀者〈
同 凡大射者預點召使者取散位年廿九以下有容儀者〈
〈玉廿七〉 〈菊上七廿〉
〈大浦下百四十四七九〉

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

みけるとはめのせうとれ主殿のつかさのひとりて侍らんとりと △樵十はめしとさちりてつゝ
まつりもてまゐるもゝりて申おのおもてをとりてみつてて △胡十六あさひ侍にある
かせうのかゝらにけるを見おりすへしてるを数得るを少なる △揉と従 大
饗(?)にゐてめしておさはれにはめてをのけ侍のすけ兼しうけにのそくに紀種の少将まて
め 飲食スル △扶二下七 御湯のと針 つゝみのにはのそて のりとすれはむかしおりある
るはしはるゝにるてもと侍らり △宇治七 八十オ九 紀のゆつけるに水つけて おもしのすへし
と申けり 云々 水飯なとまくしめしても はちてはめには名には侍るてふまへしにて △
正武業万八廿 紀女郎贈家持 六六ウ廿六 芽花 无名 頁六 見けるの香おすもゆ山おもむ時にぬけるつゝる
御食 ひ六 而ありうちを △万十六ウ廿三 咥笑瘦人 なまるにわれおもひてまもりをしにすゑ
むまさとり 食
め しち出 石枕十二 のうへに方るるめるかりて出るもにはととめてこめつれは虫むもこなもる
寸 △若紫九十 はり夕方にのるめにあひてめてこめにあつる 袖もてあそ寸 △宇治十二十
とうらにてこめとを侍るくにはれて廿日まりに侍りけるおまりけるにいとのかりてぬいこまお
ありけりてそこめしゆりてけるとも △古今治六 伶人助元依府役懈怠支被召篭
左近府下倉 △清輔集 二条院御時蔵人也つかさとられて去りはの廿日まりにけ侍ひめ
らむかり
めしお 宇治 かりそめにひとまのみそめてかの遠方人なれとしかりせさせ侍られい
めのちひちにしてちきりてこそまさかりとなてもかいとをりぬくまるを 舎那 出りれは
めしまつはす 相廿 源氏 けるはちこの君のたまひせは人もめしつれ 玉の寸 △亦川 花の行れ
おはへ給めしまつりして
目にとあや 総廿七 大宮 ㋐八 心さかり ゝ出ひさかめるに 北の方もあやにくなりけるを おもかりて △蓬 四ウ 人の
そのみもこさるけまとめしもあやなる侍のもらかつてもつかうるにたとえいさしまゐりけと 兼さ
る 前集十九 おまかさの御侍をそとなへかりけるいさかひきりもあやにつる 気九三 △後下 四八 四四 けるお
とあるとて本あるのおいもにさかれ何ともひゆぬかれともあすかやかる夫りくもとひてそなんを
して △拾下 六四 前ふりてとん 玉のりしかと侍らはそとからくよしつからめ世にへるらに命のあるみる
ありいめてもあやにくゆりいさかりけり 西云枕十二 四ウ 六ウ めしもあやにくなり
目もある 泉式集下 出雲へいくてまかもあるゆかく村雲に侍りてそうむかはよは出
ひねとうとも
目とおかやく 画十三 今めしさとてまけりもあそふのもやくまこるかね
めひらいくん 総
美之部
弥勤 夫廿一 枯 出高 仲西集 ねむよれかあのとけのちまかのみころ侍とものやちおとと △
見所する 夢 恎 るめかありとゐ侍にの花のいのあしまさをのもとにはりえ侍もる
身にあかする 相十三 身にあるかるとの法志の身に層上こふ △秋毒 世 无名 娃さとも若い神にもくみにも
さまなひいおさもの 一のるりもめちゃ △明十三 △同廿九
みはちれは 浮 七十 ㋐七 侍るとともに出羽の侍ゆかりかたをのちかもちりてそこし
身ためめ 枕五
みる出し 枕四 給ちめくみつれるわくぬむとうる条針めととかいかにともいはれつかえてつこゝる 卅三
一

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用

身をうむ　拾遺一中務祖母うつせみの身をうみて社のかみ
日吉六を　あをやぎの糸をよりかけ八百よろづ　△順集廿三あをやぎ
糸はおほくて　我をのみ思ふものから　△後廿むすぶとていはれ　△晶浦集　白川殿の
事にまかりあひて　一尺許なる北野山　まさきの葛　△日
　拾遺雑賀　ゆふだすきかけてぞ祈る
水もらず　千載冬仲実　いかにみそぎのそらけ
そわく　百十三社考　△日廿　△西武葉　日九州　ある山の
ふ　△日十社考　△三宝の山の岩ほけぬ　△楼　△葵廿七
らん　△浮立　ぬさ　△拾遺雑賀　ゆふだすきかけてぞ祈る
みそぎ水　古春下　志賀の禊　桜花のみそぎ
方集　みそぎのおもふ　ある夏の
御門の　若下十五　こひわたるみそぎ
みそぎ　拾立六廿　仮名
水脈　夫木雑　身
身がつき　拾遺八八　ちはやぶる
　拾遺立廿　結ばん
△浮立　ぬさ　人多

ひて　怪をけさ　△楼十五　△処女十六立　△松廿五
　拾遺　処女十三廿五　忽ふ
祈　△楼　△後撰二　給ふ
西廳　義下　廿三　みそぎ
　玉八　△後撰　給ふ
三笠山　拾雑賀　△後撰　笠山
ふ　△後撰　笠山　△後撰　笠山
もとの　△新古　我孝　少将
今日　△右京　集等
大原の　ちとせの
ゆゝしく　みそぎ
大将中少将の異名云々
みそぎ　花山九門　ゆゝしきことゝもゆゝしきことゝも
集　△枝廿三　御ふいとゝもゆゝしきことゝも

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

みづら 角月 取巻二九

みづらゆふ 夕廿二 [illegible] △梢十七 △若紫

廿三 △澪廿二 △東四三 △狭二上十八

みづら足 [illegible] 蓬 謠廿 日 [illegible] みづら [illegible] 付

[illegible] △順抄三十七ウ 脚気一云 脚病俗云 阿之乃介

みづわくむ 若下百五十九ウ [illegible]

[illegible] みづれ

みづれ 柏廿三 [illegible]

[illegible]

みづれ [illegible] 狭四下廿九 [illegible]

[illegible]

[illegible]

みづゆとり [illegible] 好 [illegible] 集十二 [illegible]

[illegible]

みづけ [illegible] 夕五十四 [illegible] △初花十五 [illegible] △仲文集 みづけ

御精進 夫大九 [illegible] △古集十二 [illegible]

[illegible]

[illegible]

延喜式 [illegible] 注二 金峯山ニ参ラムトスル人ノ千日ノ精進ト アレト初花ノ巻ニハ百日ノ精進スルナルヘシ △

西武云 枕六十四 [illegible] 暁

[illegible]

弥陀仏御国 [illegible] △西三 此哥貫之集廿二出 △

水絶 六二廿七日夜元名 [illegible] 世 [illegible] △躬恒集十八 みつ

[illegible] 集廿五 月 [illegible]

[illegible]

[illegible] 帚四 [illegible] △槿十一 [illegible]

[illegible] △夫四 櫻花 仲正 [illegible]

みつを男 [illegible] 弟四 [illegible]

みつを人 国上廿五 六八 [illegible]

[illegible]

みつを心 蛍サ みつを [illegible]

みつをの人 枕六

晦日 朔 [illegible] 廿四 [illegible] 十二月 [illegible] みそかに [illegible]

みそかけ [illegible] △蔓五十一 みそかけ [illegible]

[illegible] △明礼紀内則男女不同椸枷 注 椸一云枷 此謂衣架 △河提架 延喜式御衣架

也 今案此語曲礼ニモ出タリ △順抄十四 嚥 衣架 箎音 移字亦作椸 和名 美曽加介 懸衣架 也

みそち 夫十七 [illegible] 四 [illegible]

[illegible] 新古 [illegible] △古今 田 [illegible]

みそかづ [illegible] 四 [illegible]

[illegible]

[illegible] △ [illegible]

十五十九 裔をほとゝぎす みそうつる 〈着せ十六 世 紙みそ〉
時ほとゝぎすありそ 山ほとゝぎす 〈月十八 もの 名 連帝 或人 此句
きゝすてゝ 〈夫木雑 下三七 味噌水ノ音便ニテ汁ニシタル 味噌ヲ云ヤ
千載春下 長谷に参詣しける道にてほとゝぎすの
伊勢集十 年ふれる家のうしろの山ちかみ
みそ〳〵 沙石七下 山にすめる蛇一にうかみそ みそ
みそびめ 枕七 十九 十二 海ほたる
三栗 三栗 後拾十女 みつ社 社 社
三の友 未四 ゝ
三の光 夫十九 オ 天象 〈家語本命解 〈礼記郊特牲
三の 夫十九 オ 白川 後西川 三 経 延 汀
〈早蕨七 め
〈狭四中 サウ 〈古今 日
後雑三 桂 姫 〈大治上 十 百九 〈続世 袋双子四 〈今昔十二 塔 望 法
水陰草 万十 廿六 无名 水陰草 秋上赤人 〈赤人集 〈六十 九 載 〈契云 陰中ト男ル山ノ陰中也 杰ハ水ニ生ル中ヲ水陰中ニ也 〈新勅
秋上 赤人 清輔
水影 桂 川 梅
水の 古 名 伊 波の 苑 神 〈三武業 玉 集 七
西園 〈古 秋下 〈三武業 此哥 〈続
水の秋 三武業 〈古 秋下 〈三 〈続
〈続 公雄 屋 言 川 〈首 昏
庫 細 枕九十九 中少将 〈
鳳輦 御 細ヲ奉行スル大舎人助ヲ云ヒ 百寮訓 要云大舎人寮 寮 直ノ丁ヲ司ル令ニ見エタリ

五

節会ノ諸卿ヲ召スコハ大舎人ノ役也行幸ノ時御綱ナトヲ奉行スト云々△長本平治十四 公卿も近衛
司もみつなのすけもこれ讃きまゐりたり△新六 [illegible] みつなの [illegible]
てすゝむみつな神そしるけな

水尾の御門 古今哥ハこれなし 貞観の古写本 [illegible] △紫明六十二 水のをの
法門 [illegible] △三実卅八十一 俄而入丹波国水尾山定為終焉之地 元慶四年七
月七日是夜酉四刻奉葬太上天皇於山城国愛宕郡上粟田山奉置御骸於水尾
山上△皇年代略記 元慶二年 五月八日於粟田院入道 四年十二月 四日崩号
水尾帝後日謚清和天皇

水波（ミツナミ） 堀百 [illegible] △注只
波伝ニ替ラスサレド白キ波ヲ云歟△千載冬ニ 小天地 [illegible]
社ニは [illegible] △抄序晋也女ノ上裳ニ大海トアリ水波トヨメル是ナルヘシ冬ニハ立初メ伝ハントテ也

みつら 神代上 結髪為髻（アゲテミヅラトナシ） △記上九 刺左之御美豆良湯津々間櫛△万廿廿九 [illegible]
[illegible] 美都良の [illegible] △順抄三廿六 髻 髪 和名毛止々利
髪也四声字苑云髪音還 和名美豆良 一云 訓上同 屈髪也△澪廿三 [illegible]
[illegible] △柏廿七 みつら
[illegible] △首書可考△紅梅八ウ三 若君 紅梅ノ息ナリ [illegible]
[illegible] △花殿上童ハ東
帯ノ仲ハ総角ス是ヲミツラ伝 殿居姿ハ直衣ヲ云其股ハロトキカクル也

水駅 初音十六 みつのうまや [illegible] △竹川廿三 [illegible]
[illegible] △椎廿九 [illegible]

なりけると△濱松四 [illegible]
みつの [illegible] 国下廿七 みつの [illegible]

三の車 後拾 又義无名 [illegible]

水のおもに 若下六二 [illegible] △冬青十 水 [illegible]

水の心 古今三 吉野川の [illegible] △袋草子 白川の
[illegible]

水茎清し 若上八二十七 [illegible] △花玄賓僧都山ニ入時の
哥 [illegible]
[illegible] 蘆葉廿 閉原 [illegible] △同九 権ノ [illegible]
[illegible] △夕顔十一 [illegible] △末摘十二 [illegible]
[illegible] △横笛下 [illegible]
[illegible]

[illegible] 若菜上六 [illegible] △常廿三 [illegible]
[illegible] △床廿二 [illegible]
[illegible] △狭二下四九 若文ハ大将ヲ

[illegible] 寸 [illegible]

水かゝみ 幻廿三 [illegible] △狭一上
六ウ四 [illegible] △同二下廿三 [illegible]
[illegible] △椎松四 [illegible]
[illegible] 長哥先名 [illegible]

水車 夫十七ウ氷為ス〈新六 みくまくま田川みそぎり
水こそ 活板伊勢うちなびくみ山を 水こそをにうるおう
みくまのくまち集
水之島 伊勢集 夏ふかきのの水鳥ゆく〈山ホ集
山里に苔ふきわたる跡ふかき水こそ 世をうきみ
みこそ 夏そそぐ水のおとすずし
みつ堰 古今三 みつ堰もるひくまを堰かねて
三百六十 堰百搥除根限 こうのもりそくへ
そ迄寸 帚ニ 移ル 移ル 移ル
身形晴 並 女性ニ用ル 移ル 移ル
搭ぞにまを 移ル 移ル 移ル
帚おくまくへ 移ル 移ル 移ル
南亜海ニ集 楼所のかくま 移ル 移ル 移ル
そこのくまくま社おくまくへ 南ヲ 移ル 移ル
そのくまくま 三実廿五十 五穀豊登 世之 廿 給
みくまる 新六三 鳴ひ 移ル 移ル 移ル
水口 帚 移ル 移ル 移ル
身ふる 空掻 移ル 移ル 移ル
みくまる 蓬十五 移ル 移ル 移ル
みくまる 移ル 移ル 移ル
水口 帚 移ル 移ル 移ル
南亜海ニ集 楼所のかくま 移ル 移ル 移ル
そこのくまくま社おくまくへ 南ヲ 移ル 移ル
そのくまくま 三実廿五十 五穀豊登 世之 廿 給
みくまる 新六三 鳴ひ 移ル 移ル 移ル
廿七 挽 菱 移ル 移ル 移ル
みくまる 泉式集上 移ル 移ル 移ル
きくまくま 移ル 移ル 移ル
きくまくま 八日 移ル 移ル 移ル
廿七 挽 菱 移ル 移ル 移ル
みくまる 泉式集上 移ル 移ル 移ル
きくまくま 移ル 移ル 移ル
きくまくま 八日 移ル 移ル 移ル
廿七 挽 菱 移ル 移ル 移ル
みくまる 泉式集上 移ル 移ル 移ル
きくまくま 移ル 移ル 移ル
きくまくま 八日 移ル 移ル 移ル

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

みかはせ 明四十七 [illegible]

みかはべ 拾葉廿二 [illegible]
けり

美濃紙 日次記 治承四年七月廿一日ノ下ニ此宣命昼ニ黄紙件紙自所給也例用美の国

所進紙

みかは寻 十六 人のみかは [illegible] 蓬萊山

みかは送 土佐 九 正月九日これかれ [illegible] △未 廿五 [illegible] △夕負 廿一 [illegible]

みかはら寸 拾葉三 [illegible] △夕負

みかはこ寸 若紫 廿四 [illegible] △行幸 廿九 [illegible] △竹川 十五カキノコエ 文円 [illegible]

みかはよ 栄 四廿六 [illegible]

御国ゆづり 源 四 [illegible]

みかはすゝし 信 廿 [illegible] △夕負 五 △同 十

みかはべ 拾 廿三 九 △槿花 十八 枕 三 卅三

みかはこ寸 玉 廿九 大四

みかは夜 帚 四七 六 [illegible] △細漿束調スル所也△河内蔵寮ノ外御服ナド裁縫所也 順徳院御抄 ワガミニツミケトノハ源氏ノ御服タチヌフ所也△玉 十四 みく [illegible] △細大臣家ニ

モアリ衣服ヲシタヽムル所ヲ司ルモノ也 順抄十 貞観殿在常寧殿北謂之御匣殿

みかはくし 紫語 六十九 [illegible] △同 十九 [illegible] △同 七十八 [illegible] △万一 十四 [illegible] 御井 [illegible] 大弐都加倍 [illegible] △相 [illegible] △同 十四 失意 [illegible] △帚 三

みかはくし人 拾 四 [illegible]

みかはくし人 拾葉廿一 [illegible] △源 十五 [illegible]

みかはしらき 拾 四四 十六 [illegible] 傍注中宮大夫中宮亮大進少進也△柏 十二 [illegible] △孟中宮蔵也

みかはきて 山家下 廿二 [illegible]

みかは侍 拾雑 四七 延喜御時 [illegible] 源公忠 [illegible]

名簿 宇治 九 十七 十四 讃岐 [illegible] △松風 九 [illegible] △正武業 平治八征夷将軍院宣条 泰宣 [illegible] 尚時ハ [illegible] 保安 [illegible] 候

とまりけれは往居にゆきて南吹にありかなしての[illegible]
らうさうろうし[illegible]
明年（ミヤウネム） 挟三上卅六 僧ノ伯 和泉なりけ[illegible]
うしやうし
名香（ミヤウ） 後和名香[illegible]
おほとり 後拾雑二 哀傷[illegible] △
寐光土（ミツカナルヒカリノミヤコ） 夫木卅四 寐光土[illegible]
都鳥（ひやうとり） 土佐 卅九 [illegible]
ひやうとり △首書云 都ホゴリハ京ノ近ツクウニミサニホコル也
みやこ人 夫卅六 卅一 言語[illegible]
京 たゝ 拾遺上 人丸 [illegible]
都鳥 万廿ウ 四十九 姓名不詳 [illegible] 美夜故扞里か
も △正武案 此哥 六二ウ 廿五 都鳥ノ頭ニ栽テ作者乙麿トアリ △泉式集下 かはらに[illegible]
ほとゝぎす[illegible] 白キカモ也 [illegible]
△後拾 和泉式部[illegible] △着 廿 廿五 恭 於方
都鳥を[illegible] 相図 都鳥[illegible] 献[illegible]
ミニ [illegible]
て[illegible]
京人 万十九 廿七 布勢水海遊覧述懐 田辺史福麿 布勢[illegible]

美夜比等よ[illegible] △正武云 万一十七ウ 廿六オ △七 廿オ △六 四十五ウ 四十六オ △十八 七ウ △廿 四十九オ 可考此外ニモ猶アレト
巻ノ数ヲ忘レタリ △[illegible] 十九ウ 源 [illegible] 山桜[illegible] △
孟都人ニ也 △後撰 廿四ウ 廿六 [illegible] 斎宮ノ方ノ人々也 △濱四ニ 中納言三八ニ帝ノ姫君ヲ辞スル所 [illegible]
[illegible] △安康紀 十四 十五
泝椰比等の[illegible]小路[illegible] 泝椰比等[illegible]
[illegible] 夫 卅三 十六オ 帯 [illegible]
みやび 万五 廿七 [illegible] 美也備 [illegible] △[illegible]
[illegible] △[illegible] 下 [illegible]
らひ[illegible] △東 八オ 十二 [illegible]
みやびか 後撰 廿九 [illegible]
[illegible] △[illegible] 廿九 [illegible] △ 若木 九五 京人[illegible] みやびに[illegible]
△遊仙 行歩（アユミ）絶娃婿（タエテミヤビカニ） △白文十二 十三 挙止閑治（タチフルマヒミヤビヤカニ）
みやびか 雄略紀 六オ 四 形容温雅（スカタミヤビヤカ）
みやすみ所 相 廿七 [illegible]
[illegible] △休息所也 首書ニ委可考
みやす所 相 六オ 六 [illegible] △細御子ナウ三奉
テ後御息所ト号スルヤウニ此物語ニハイツクニモ見エタリ △古春上二 条后[illegible]
[illegible]
御息（みやす）所 古大云 [illegible] 山[illegible] むろ古字本
[illegible] △於哀傷大徳所 墓 [illegible]

みさや 処女 十三 語 むかしみさやにてよにゐぬ上めでたくてしやまかへり △細 宮め
トヨムヘシ元上ノ馬也 △夕 みさやに見しぬは馬ひかたへあさえて
みまさなり 末 十三 わかし みまゆりすることあらし △蓁 廿五 △橋 廿二 △浮 廿三
み牧 ミマキ 語 に まかれ みまきよりむまとりきてあるよし
みまきの守 拾 四 十五 いとおほかれかりけるに おほやけしまひて △宿木 五二 十三 いと静かなる方にさる
みまきあり 紫語 五一 奏 おほぬれまれ みまきのさうにみまきあり 藤氏のことにさる
ゆるさで見そよめるとるにいひけり △注二 シクテ伝心也
み前 記上 卅一 ぬえ草の女にし有れば 美祢斯 △正武 云 紫語 十六 奏 おほやけにて北の明まて 社の大
み前にはしとおほけり △万 十四 なきみの 美家思 △円 十 卅 ミケシ きみの御衣
みけしつ 紫 廿三 みひあるれ侍をるのけちて侍るに △帚 四九
み前物 ミケミ 三実 一十 始進御膳 ミケミノ
御気色 ミケシキ 百練 四 有所思食只不可為内記之由有御気色 △狭 二上 十二 みけしきとて
さしとものおほけなきをいひまどつかひ侍りし
みけしき給はる 明 四 十三 おさせ給へり みけしき賜はる △傍注明石ノ上ヲ迎ヘ 三六
ニワナ忌レ玉フナトノ心也 △内 卅 十一 奏 内府 ノ詞 けしき近衛の大将にとめきけるといとけさやかにみえておさへ
里 ノ詞 内府 いとつくるけしきおほせける にあひてんのみのをわれわれあとくく
あやまちといとるもやにてめうへいと嫌ひ出て 近江 ノ詞 いみさまに侍る
かとぎ女御のたのむれのつかさにさむとるのみつかさあらんとひつると △椎 廿六 十三 宮
にて みけしき給はりて見ちやとありたるまて
あひぬ △ミケシキ玉ハリシトハ申シ上シコナヲ云也 △取替 一 侍るにまうけりて

参同
鈴虫 六廿 ミフノ物民国々ノミサウ御牧ナドヨリ奉ルモノドモハカくシキ井ハ

こま御くのをみまくなるをみるにまゐりつつみまくをみさやなりなん
△円 いかなるにかいかにしかけ給ひけり みまもとておいしとめてか
らかれん △俗 二 御機嫌ヲ伺フ又物ヲ申シ上ルナトヲ云心 △落 三 所のみけしきまてこる
まかれん気色いうと御しもゆ △円 みけしき給はりにいかにみたまひてかへは
しみ玉 △落 三 いうにも気色とすることをみきりあけまてかれんみけ
しもみけしきにいうへいなん
御封 ミフ 蔵裏 廿 太上天皇に御封のくまつのりかけりつつさ これをとめかり
ひ給 △拾 四六 十三 みふとのをおほくもえあけると △余滴 二 委 △濱 廿 みつけもり かりを給ひ △
禄 新不足 鉄 主 御封を給ふの法 冷泉院 大后宮 花下 廿七 いよのみまかりなむ
見ませて 宇治 三 二 のもみて河すまでのかみまてあはれおとくこもきまて みぞれなんと
することみかまりなく見しく
みかぶ 須 つかふみたまひけつつそこおはれおそくるとけまに △正武 案 平語 一 巻上
園 本 条 まつ房なれはそかれけ住つく 闕 左 停任 おそらくきさらぎ 法又 一月 に 許 へ
されぬりけるを
みかせり 紫語 四十五 奏 おこのく 法行の出家るあまりて
身 ミ あぶるひ 新 六 三 小 みかせの時雨きまのあはれひかけるを花のまのおとる
御子 ミコ 代 大 用明紀 二 東宮 ミコノミヤ ウマヤトノミヤ △古雜 下 みこのみやの御もんにはへりけるを △新古 五一 冷泉院
院 ミコ みこにまかりけるころ △古 本 上 仁和の帝みこにおはしましける時
御國忌 ミコキ 拾 廿九 おほやけしのいとさちのかのほ忌のかほ うちうつりかり △古京 條 ヤスノ 帝の御
にあい 浅の △太政官式 廿一 凡國忌者諸司就寺供斎会事但東西両寺参議已上
十

及弁外記史各一人太政官史生官掌各一人参
みぶり 万十廿ぉそ〳〵ぬの丸水隠ふ意〳〵
題ニ載〈後葉敷志〈六五オ〉ありぐ〳〵載〈朝忠集 池あ
ろ〳〵ある〈拾遺一四九九〈万十一ウ三 无名 吉日山の 岩ろぬる
〈三武云此号六三十三 沼无名出〈秋古意一 ろ〳〵
水蒜 千載 多清個付〳〵あれみさりを刈あけて
ろ〳〵 若紫 何ぬく空ひろ〳〵 羽 ろ〳〵
もりみちつそも志ろ〳〵 帚十七 ろ〳〵
も狩ぬ情〳〵ろ〳〵 〈同廿七
ろ〳〵 帚六ひさぬろ〳〵 銘五一
ろ〳〵に〳〵 桂三オ〳〵 情 〈銘五一か
も、藁 ろ〳〵 蛍芒 狩かりみさり 〈若下四五
ろ〳〵 東廿五 ろ〳〵 若〳〵
ろ〳〵 晴日一 ろ〳〵
日 ろ〳〵 桃四五 ろ〳〵 常陸の介
ろ〳〵

みあ〳〵 玉四四 みの〳〵
まくけま い 〈河御燈文 〈細顔文十九ヘシ 例文十ハ
みあ〳〵 夕点廿八 〈玉十九 ろ〳〵
ろ〳〵 帚六 〈万四 ずく〳〵
を払い〳〵 ける 〈万四 天笠
の非七万三 仏 仏
みそ〳〵 非祖式一 宀豆乃帳帛 〈古待八廿 美豆具良八何物ニシ神ニ献ル物ノ総名也 〈拾
夏貫之非 〈泉式 〈晴日五
一 〈淳廿五
ろ〳〵 顔也 菱十 〈玉 ろ〳〵
ろ〳〵 帚 〈夫七オ 資季 非
ろ〳〵 空探八 〈夕負、四
みあれ 篇 の上みあれ 〈三 首昏委 〈夫七オ 資季 非
ろ〳〵 〈玉廿五
ろ〳〵

若上百十二 花の雪のやに

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用

御幸　行幸　拾雑上貫之　大井川かはへの松にこととはんかゝるみゆきやありし昔も　△柏十八
かく昔にかへるみゆきの　△狭四下廿八　みゆきの秋にハ大宮野云[illegible]のみゆきあり[illegible]
て給ふ　みゆきありけるに[illegible]　△玉葉雑　従一位宣子の九十賀給ハせ給ふに法華[illegible]
ありけるときて　△続古今哀　西和二年法皇熊野山に法華行[illegible]
みゆきする　續卅九　[illegible]法皇ミ　みゆきつるへきあるとふ[illegible]
するにありはみつ[illegible]に[illegible]社行あれ　△蓬廿五六十一　打[illegible]ともことなる[illegible]
と玉ふみゆきとは[illegible]ん　△狭四卅四　みゆきなとの[illegible]ん
みゆき　古今九十六　みゆき　物くしく侍けるにハ　△同九　[illegible]ぬ人の[illegible]とみゆきの[illegible]
とありけれハ　△枕三卅八　[illegible]ハ[illegible]に[illegible]とて[illegible]云[illegible]
宣旨みゆきに[illegible]ありけれ　△同九十二ウ　[illegible]　△[illegible]枝十二　みゆき
く[illegible]みゆき[illegible]つけても女は　あ[illegible]　[illegible]すれ
れわ[illegible]みゆきに[illegible]
みめかす　[illegible]九十ウ　[illegible]を求めて
みめかく　記上五十二　見感　△[illegible]中廿九　大殿ノ宗内ノ手リ　云々[illegible]
身々　平語九四六　[illegible]時[illegible]　△同
[illegible]　△同四七　[illegible]岩本山[illegible]
[illegible]せ　△撰集抄四　[illegible]
耳にはさみて　枕二
耳のいた　狭四甲三　[illegible]耳[illegible]けり
耳をきゝみ　紫式部集　[illegible]　車山法師のみみと

か[illegible]ふて[illegible]　イナミ　[illegible]
[illegible]耳をはさみたる　是ニ依テ耳ハサミ伝物別ニアル物ナルヘシト久ク思居タルニ此頃
アル寺ノ什物ナリケル古キ画巻ノ物ニ円光大師ノ剃髪ノ所ヲ画カキタルヲ見ルニ袋ノ如キカタチノ
物ヲ挟テアリ是古ヘニイフ耳ハサミナルヘシ昔ノ女ハ髪ヲ垂レテアリケレハ額ニ髪ノカヽラサル為ニカヽル
物ヲ用ヒタリト見ユ　△[illegible]上十二卅二　[illegible]
[illegible]耳はさみ[illegible]
く[illegible]　△帚廿六ウ　[illegible]耳はさみ
[illegible]　△[illegible]云玉小櫛
五廿七ウ可考　△梅上廿七十　[illegible]耳はさみ[illegible]
耳をとらへて　枕三
耳とゞむ　[illegible]二　[illegible]耳とゞめたり　△帚廿五　[illegible]耳とゞめ[illegible]
耳とゞまり　栄四三ウ　[illegible]　東文十[illegible]耳[illegible]
[illegible]
耳にもを　於聲鳥　[illegible]耳[illegible]ん
耳とまり　帚廿十　[illegible]の目耳[illegible]末　二十　[illegible]下四一
耳敏川　六三廿十　川名[illegible]耳[illegible]　△正武案[illegible]
[illegible]夫廿四四[illegible]　川名ニモ哉　△同　[illegible]川朗極　み[illegible]の
[illegible]　△同[illegible]　一元補　耳と川八[illegible]代の[illegible]
[illegible]
耳[illegible]ぬ　床[illegible]十一　耳[illegible]　△[illegible]可考

耳かしかまし　夕貞十九ウ二　常みところかす　こうはしの音も枕かみに　覚ゆなる耳かしかま
しと思ほゆ覚えたり　△竹川廿九ウ三　まなひるかたりゆかぬ耳かしかましきところさかしき人々
耳かしかましと思ひつる　△末廿一　あれはとて　耳かしかましくて　△月宴六
耳をつねる　蓬廿押　さつねるまの耳をつねる目をみ耳つねる　△若上四三　ひとつ耳を
ねしらせまうと思ひ人に社ころ耳をつねりつねるにおもひとられ
耳ふさぐ　狭二上四七　中納言　佐心　ゆゆしくと月詠目とまる耳ふさぎ
みれは心をしとおもひ身をもつるを
耳をすず　帚六三オ　ものきこえみとこそ　あふにふるはことに耳をすまし
耳とまる　枕二十二ウ　たまる暁近ちかく　音もきこゆ　ほのかに耳とまりてきけは　△通明集十八詞云
傍に語らむ語らふんとて云耳をそばだてきくにいとあはれ
耳なれ　順抄三十四ウ　聤耳　上音亭和名美々太利爪熱入耳生膿汁也　△拾玉十七　耳なれと
耳なれぬ　吹下十六　松風の音もあまたにたえずあまたと耳かたふけ山下
山入耳なれぬなり　△正武業平語二　康頼祝辞条　仍て澄詳楼現就大蔵垣松の
く青蓮蓮照のまなこあひるべきさとしまれ清耳をすすくへきとも　云
丹清をおそれ一つれ怨志を納めたる
耳にも入らず
みだれく　我ながら　柏光後　山の風になれ葉さへ音こそすこしもみつくも　守屋なく
拾玉一　いかなる寸　浮山岸の　みたるにはかに岩の松風
耳ざとき　狭二下十八十九　なめのこゑいと耳つきに覚えけれと
るむ中ふるてまちなちれそけりせむと　△或人云耳ニツキタル也　△雅望云耳ヨリ伝词欤

耳訓　後拾二　ちかきものを耳社ろれぬしまの　つきのもへぬれは　△末五
いこさ耳なれとさりしと覚えけれは　△明廿九ウ　まこ耳なれぬ　△蓬四　常くろなる
耳なれて　△狭一上十八　△月十九
耳なれにて　袂さらきあはれなりける耳なれて傍には
みみらくの島　万十六廿六ウ　肥前国松浦縣美祢良久埼　卯本弥誤作祢　△続紀六十二　承和四年七月
癸未太宰府馳傳言遣唐三箇船共指松浦郡旻楽埼発行　△蜻日一廿九　傍とも
ひとつにはききけれはあらはにみゆる所なんある近くよれはきえうせ
ぬと遠くなりにけれはみみらくの島となんいふるにみえに　△
袖中三　耳なれの島の音もみけにはるかに　おとに傍れの音も付き
小宰相きみみらくのあなると思ひて読るあり　△能因坤元義云肥前国
ちかの島に埼と云所あり人ありて父子相見云々
耳なれて　前下廿八　こなたの音ものこえしく耳なれにけれは
耳くせ　狭二上四三　中納言おはすの耳くせに　云々
耳そばたつ　蜻日四　思ひそはたてく思けり桜なと思ひたりけると覚えつ
るそはたつ耳をそはたてたりけるにそ
かたる傍にいるものかたりける耳あつかしく
耳鳴　若下十九　社寺の社寺ある耳あり目なれ
耳やすき　若上八オ六　ありきよれ人の命も年のねぬ　△嵯峨
小弁かいとりかしを耳やすき人のありけれ
五三　なれとつれなきいとひはつれは云々　耳やすく

耳きゝ 盛衰一 禿条 十四五六十六七計なる童部の髪を首のまはりに切て三百人めしつかはれけり大会宴の珠萱をかふらせありき京中の耳きゝ也△同 此禿ありていさゝか人のあしさまにいふ京中にて耳きゝしてたのしきもよしなれ告にてあはれけり
さる耳ざときよし 狭一下一 みいそうきる耳ちかき事なりと申す人共宮中のかたへの
ほどへてさまかはりて耳をそばたてゝ人々物おもひてたがひにかたりけり
耳ときく 枕十二 廿三 人のひそかにいふ事のつゆきゝもらさず耳とくきゝつけていひなど
まもりより人のありしさまの耳をもきゝつべきおもひいでらるゝもはづかしきさま
人の耳に聞えいと恨しくなるや
耳をきく 国下廿五 廿三 わたつみのかりのすみかしてせうとの人わがいのちはうつり給へる
かたらふこと共おもしろく何ともなきかゝる耳をきくる程の有様に
後はおもひとりて住給へると△栄下 七十六 このまゝかゝる耳いとてきゝよきにも
いはんや門をさして弥生のみぞけさあはれなるきゝし
耳もきかぬ 枕二
耳ひとつ 宿木五九 かの侍耳ひとつにいひ合せられし
蚯蚓 信 廿四 近まりてみゝはうきとしておとせられたる事△家人集四十六 其人
除夜にかのいさゝか情のあるやうなる紙とりてもすくうつりなくうけたまはりつゝおもひ出よ
うたのうへにさゝやきかくれてはかなくぞなりぬ みゝに入ぬる心ち△木綿四手
ゆくて姫宮みゝにかつて世をせまくる
身じろき 夫廿六 四七 三諸侍奴 おもしろきとてもかくもすがたのせむ衣をくるまをかへりみる
とて△雲隠八 木丁の陰にかくれたるを身じろきもせず有けりとやいはく△玉十三 十六 七 監

ふところより出ていさゝかの事ありしさまにもかくいひて又いひきかれ△若上 卅三 ひとみにかゝりける
ぬ侍のありきさまをいかにいふはすゝめけりて△蕉二 六人近衛よりけれはいはせてみありけしき
をせよ△枕四十七
をとらぬ 勢語 九段 京にはみえぬ鳥なれば皆人見しらず△帚十二 今の人にみえぬ世には
をさなき影 枕一
みゝにはさむ 夫十一 卅二 女房志 三条奉納弁志を和する方小篠波 検侍正公をかうぶりにしたりける私の行
小女房をうしろむきにみまはして みゝはさみつゝもの
みづから 寺寮十 仏のうしろにみゆるをみてえいにおもひやりてぬるかたの御
帳のうちにいりて ねふたく
短き人 勢語百十三段 ながからぬいのちのほどにわするゝはいかに短き人の心なるらん
みじかき 布引滝 ぬきみだる人こそあるらし白玉のまなくもちるか袖のせばきに みじかき 釈迦仏 みそれ
玉のをのみじかき心思ひあへず なほこそ人を恋ひわたりけれ△帚六 さはすこし待てへりし 東 卅三 うきもしはべれ
みじかき女とそめのは
△古今 いまはあれと 海人崎員 ながからぬいのちなりとも みじかきの 短き人
おもひ侍りし△末十二 ちりぬともよしなき心には短くおもはれ 大井川 かくれたるみ
うさをしれ このゆふべまたはあはじとおもへば玉の緒の絶えなんとする命なりけり
短き几帳 枕五十五 五十九 絵十二 はしちかくたゝずむみちのにはに 木丁
みじかくり すこしおしやりてあけて あさましくもあらず みじかくり出でたるもの
ひきよせてたちよりたる所にかくれたりて さはるやうもなくて

みちぶ　新古秋上後第
おら立衣笠内大　山桜ちるの
古注ミヲハ水ノ渋也
みの。　催馬　浅水　安佐乎川の　波之乃　云々
うそ　とりふくや
みのひ　俗ニ蓑毛井　あらそふ　蓑毛比ともみ
ゆるもト
みじ〳〵　青虫（道細ノ世居コモリ虫ヨリ出ヲ云）　今本廿七ノ二字ヲ脱セリ高本ニ
させよ　とびし　第四ノ三句ヲ脱ス
へるにみまて　車ともにはいれをりる
みしく　大後三　かうの一叶
ゐる車にふつみ〳〵　あるふ
ふあ　第肚十学
のうそふん　菱五
ふとうん　永久百廿六　新後拾遺六五
みすり　夫木二　重
めんう　永久百廿六　新後拾遺六五
うる　四武菜此号夫廿三廿三　載十三句
ふせあぐを　枕三五
ふるあんとひ

ふせそこば　新意　くれのあけぬるものそ
ことおもひつゝふしんのうちをふせそこいとも
つゝをなりゝゝ
みせん　宇治一世　梅ふくを入　此答
はさみをとるみせんやうり　順抄十六　暑預当杉　和汁　作粥食之補　五蔵トアリ
以暑預当杉　和汁　作粥食之補　五蔵　トアリ　六蜜煎ノ蜜ナルヘシ
ふすをひてあんをもかうん　社参り　海あれるめ
△日　万おつけて　△旬廿四　△名所七
みの〳〵　蓑おら　処女廿七　法ノ
ふるおくる　仲山
みす〳〵　蓑廿　めみ
めみせんいるを　△花見ル也

みと　鷺　夫廿五　麻生　蓑ニ着ル海辺ノ物

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

雅言集覧

志之部

石川雅望著

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

よりかはるゝりや
死にかばね 土佐廿五 二月 ある人 よめる 白玉と見えしも 一しほみるも見えぬを
くらげの なれるをも 死にかばねよりきえし 書るも あり ○大論 臨終之時色黒
者堕地獄赤白端正者行天上
しにかばね 父子相逆抄上 わが身にも しにかばねのみ ○智論一切死
屍中人身最不浄
しにいり 夕霧四 しにいりたりしに ○万四廿三笠女郎 拾恋
五卅三人丸 おもひにし しにするものにあらませは ちたびそ我は しにかへらまし ○武蔵此言
六四廿三 恋笠郎女ト義又云万十一廿五 无名ノ句 恋スルニトメ再出 ○画十三 遠ひとり
りかはるれ ○夢浮六 我のしにかへりぬさるさまなれ 作し
しにかはり 楚王夢廿一 はるかなる国人うちめでたき
ぬそのかはりにしにかはらん
まゆ給へんまゝん とせの中にも ○月宴廿
かくちゝしねたる様にも 抄 汐ノカタマリタルガ鮮ルヲ云其ナニ汐タルハ惣也
○夫廿六柱 忠情 根身恥延言 倭形 年
しにたれや
しにとけず 挟二上十五 しにとけ
しほける
新発意 しぼち 蜻蛉廿 △細 初テ出家シタル人ヲ云 △河雑発ハ入

二

釈門人也初発心ノ義也経ニ新発意并伝カ如 △花御堂開白出家シ給ヒテハ入道殿ト申シキ是ニヨリテ出家ノ人ヲ
入道ト伝フナハ憚リテ多田満仲ヲ 新発意ト其頃ハ申侍リ
しぼる 絞 延喜式十七内匠寮式十二 絞染帛二尺 ○古今二
しほる ○勢語七十五 ○注拾遺四
元輔
しほれるも 重之集廿 ○拾雑恋 拾基 ○
頼基集廿
○須芝
夕霧五井 ○椿十
相西 ○太鏡 八七才
のまにまに 人
しほるゝ 源氏三 伊勢 須磨山 伊勢 ○宮十三
いせ ○蓬十五
うらく
しほれ 蜻日四
しほゝ
しほむ 万十九廿二 保美
しほさゐ 潮高ノ浪ノサワグヲ云 ○万一卅人丸
しほあひ ○万三廿九 无名 塩左右
しほやき 蛍十九十五 △孟三ホウハ実法也 ○床九廿 中将

三

のいしぶみの[illegible] 撰士 [illegible]

○国下四十九 [illegible]

塩を負ふ 十訓十七 楚の山に[illegible] 玉璞 [illegible] 寸 呉坂

をこえける 麒麟も王良[illegible] 秘曲[illegible] 実[illegible]

しほさん[illegible]

しほや 枕冊 [illegible]

塩屋 [illegible] 古今五 [illegible]

ぬ 正武紫万三四 土佐公人之宴吟言[illegible] ○正武紫世四万

○六五四 塩やき [illegible]

十一 寄物陳思トテ載又続古今四三モ人丸トメ出セリ ○槿花 塩やき[illegible]

[illegible]

塩舟 万廿 常陸国防人丸子部佐社 久慈川[illegible]

ゑこん 汐サキヲ漕舟也ト云リ 正武紫万十五 [illegible] 可利 利官本毛 本作知 馬利 ○同廿 思保夫祢の[illegible] 斯乎 平一 作抱 布祢の[illegible]

[illegible] ○同廿一 下総国防人印波郡丈部直大歳 志保不尼の[illegible]

[illegible] 是等ノ号ニヨレバ汐サキヲ漕也ト云ガタシヤ 猶ヨク可考

しほ[illegible] 万廿四十 上総国市原郡防人刑部直千国 [illegible] 志保々ろ

[illegible]

しほ[illegible] 同廿 [illegible] ○ [illegible] 十九 [illegible]

[illegible]

しほしき 新撰六帖 [illegible]

塩しみ 明四 [illegible] ○後撰廿六 [illegible]

[illegible] ○夕貝 廿二 [illegible]

[illegible] ○藻塩 廿六 [illegible]

[illegible] ○浜松 一 [illegible] ○同 三 [illegible]

しほへ 続紀五十三 獄訟无冤 ○文粋二五 柱圄之中恐有冤者 ○保元 三 七人民ヲシヘタゲル由ヲ訟ヘ申ケレハ ○徒然 百廿九段 [illegible] ○注虐ノ字ヲセタゲルト訓リ

芝菜 シベ 十七 [illegible]

しど 盛衰七六 尻頭 [illegible]

しと 著聞十六廿九 [illegible] ○紫式日記上 枕冊三十一 [illegible] ○[illegible] 四 [illegible] ○落上五六 [illegible] ○同 五七 [illegible]

しどろ 後拾遺一 良暹法師 [illegible] ○

堀百 枕 [illegible] ○夫木七 二十七 ○

千載秋上 [illegible] ○ 落葉集 [illegible]

[illegible]

…ぶ…

…ぶ刈萱 刈萱 元名ゆめるれとも…

○垣百廿 刈萱墓後おふるもの 刈萱の刈…

…ぶ…

…第…

…月宴十九…

…内侍…

…帰…

…ひんな…

…上一廿七 俗…

…○同廿三 大雨 仲少将 第カ…

…月宴…

…○同廿四 大雨 仲少将 第カ…

…○同廿五 大雨 仲少将 第カ…

…○同廿六 大雨 仲少将 第カ…

…○同廿七 大雨 仲少将 第カ…

…○同廿八 大雨 仲少将 第カ…

…○同廿九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同七十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同八十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同九十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百 大雨 仲少将 第カ…

…○同百一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百二十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百三十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百四十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百五十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百六十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百七十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百八十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同百九十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百二十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百三十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百四十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百五十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百六十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百七十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百八十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同二百九十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百二十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百三十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百四十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百五十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百六十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百七十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百八十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同三百九十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百二十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百三十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百四十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百五十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百六十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百七十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百八十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同四百九十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百二十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百三十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百四十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百五十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百六十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百七十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百八十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同五百九十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百二十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百三十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百四十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百五十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百六十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百七十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百八十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同六百九十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百一 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百三 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百四 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百五 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百六 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百七 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百八 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百九 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十五 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十六 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十七 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十八 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百二十九 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百三十 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百三十一 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百三十二 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百三十三 大雨 仲少将 第カ…

…○同七百三十四 大雨 仲少将 第カ…

…○同

国もつりしぶ云々いつ移ふ侍らん○日廿一さもさも
九月廿日ごろ一ものほくそをうなゐもふうろうあくそ
志ち　ようろ　勢語百二段　昔男ありけりいとねんごろに
めりけり○正徹云三井高陽云臆断ニ実要ナリトアレドサラバ
実用トアルニ随フベキナレド真字本モ假字ハミダリナレバ随ヒ難シモトハ実様ト有ケム方假字ノ乱レテヨ
ウトハナレルナラム
志ぢれそしぐ沢　拾玉六　とにくふうき勢あるも浅るくんさもれそくるも略のおれるよ
七段柏　七段柏　順抄十三ケ　薬之度岐　祭餅也○宇治四年六
志ぢ記　我猿玉記　五條道祖奉薬餅　干葉手
志ぢらい　弁内侍日記下　はさちらいのくにそ常みちくみて　そそのみ
ちらいも失礼
志ぢ仕丁　非蔭式　春日神四座祭云々仕丁二人　常陸国鹿島神封仕丁
ひとりくるとらいふをくるくるくるれ
志ぢ　勢語廿四段　志ちに志くおひやけど○花宴廿　楊ゆくの綺の法衣　蒲海の
志ぢごろね　志ちごろね　抄下喪ノ条也則裾ノ事也○京師土　少ゐ事ゆくり
二条院ふおくもぬ
尻　蔵二　かいまくそ出ゐるそ志ちをくくそ
尻ふる　宇治二廿五男うちふそ血あり汁あり
志ぢへで　蔵五四志ぢへふ志ぢるふ○正徹業記上　尓援所御

佩之十拳釼而於後手布伎都々此四字以音逃来○神代上廿五　援釼背揮以逃矣
志ぢへさまの事廿　志ぢへさまふみそ志ぢへさそ
志ぢ　勢六二廿　寺　伊勢　るそうも　志ぢかも
伊勢集詞出云泊瀬ノ寺ニ参リテ親ニ思出侍テ
のあれをそうくまそ
尻かけ　帚廿三　志ぢそくおふくけて
志ぢ後　言也　○
多考六五廿　志ぢうくふも
廿　あもくつや　志ぢくやふのや
志ぢくど　手語五　文覚被流条　いふひくのれん
尻くぐり　枕土
志ぢくぐる　記上廿　尻久米縄○非代上　端出之縄　此云斯梨倶梅雉波
志ぢせる　要之集廿　非蔭式　百ものの外月
尻舞　蜜嚢廿七廿二　後葛葉空盛　長カ呼　ほあい　舞胡仮師　尾張法楽　といひる
尻鞘　新六五　衣笠内大　多ち志ちくれん志ちくれん
云此亦夫廿二処　鞘ノ是ニも哉　尾尾尾

志ぢ　採集抄三　人志ぢそふ　立て多ひる

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

横サニ木ヲ結テソレニ居テ麻来テ其下ニ在ヲ待テ射ル也

鹿のむらがり 万廿五 ※おおくの意 ○武云思加婆一本作由 ※そこらの羊奈和気ノ如 ○武云此等六ニ廿狩ノ歌載○円八四六 ※胸別みあり 秋の末のあるべきことなり

試楽 巻五 試ミそなはし 未廿五 ※ならはし

麻まろ 狸 十二類ノ合

威哀廿九

まがふ 和訓栞 昼昭説ニミカヅキ中ノ刈テ東ネテホヲ結ヒ合スルヲ云スカフヒモ云ソカフ心也云リ ※ゆゑあり

まろみまろぶ ○夫二廿三 ※ころぶ お保二ノ三 ※堀川院中宮詩会ノ題 ※ころぶ 山家風 ※国房

山ごの形ころびの形 ○陵詞也難上 ○山ぶき上 みなそのふきのごとき

云云帚 四六酒 ※ころぶ

しろうるしと沙羅樹と ○未廿六 ※仮名

ほや ○円五四 ※ほやを焼て塩をそゝぎ ○前漢昏役賢傳 上方招文学儒者上曰吾欲云々 注師古云 ※犹言如此々々只略其辞耳

麻もその子を載 ※ころぶの形をみのりを ※ころぶ

まがふ 古記下五仁徳条 ※ころぶ 木 斯賀 ※ころぶ 斯賀 ※ころぶ

斯賀 ○武云記傳廿六社 ※季悉 ※ころぶ 続紀六十七 今毛又忠賀 ※毛 思行 没 ○拍十四 ※ころぶ ○吾雑下 ※表採我

押 ※ころぶ ○名四 ※我 ※ころぶ

まがふ 上ニヨソトイハヌカ ○名六 ※ころぶ

おほひ ※ころぶ ○名廿五 ※ころぶ ○若上 ※おほひ ※ころぶ ○若下四九 ※ころぶ ○拍十九 ※ころぶ ○名毋条 ※ころぶ ○名廿五 ※ころぶ ○若上 ※おほひ ※ころぶ

叱狭三上廿七 ※ころぶ ○武云此等ノ三ノ句ノミガ顔ノ羽ナド此条ノ外ニ誤也可削去

岐王岐女条 ※ころぶ ○予造二 ※ころぶ

鹿 ※ころぶ

木夫十三 ※ころぶ

月須仲山 ※ころぶ

忠後百 ※ころぶ

○今昔廿七 ソレハ高キ木ノ股ニ

不労頼政条下廿九 ちるもみぢ不労頃ろそくてかくそうらふける
不労 年ふ ふるもみぢの中ふ
叙位 掐辞春 正月 叙位ぬ ふるみぢまりあひて八正月五日人ニ位ヲ叙セラル、ナセ八日
女叙位也 本ノマヽ下同
呼得 元名抄下 披露ぬ付をもつ子 ふくに御酒をもつ
とく ちるもみぢ ふるもみぢけれと〇同 我ふ
して我いまそく ちるもみぢ〇宇治十帖 水干
ぬ ぬ男せうとく ちるもみぢそいつれを〇前太平
記 法のみち 子いさゝ大勢を修ふの
かれ〇不可都 ふるもみぢを 子ふ
ふ〇宇治三十七 ふるもみぢ 智
ふ ふるもみぢあんめ 仏
度論一 入仏法宙山都元呼得〇法花経五百弟子授記品 若少有呼得便以為足
承仕法師 法花廿五ノ 通照寺ぬ承仕法師
南都の承仕ふ〇古今六帖三 恵心僧都ノ承仕法師奉花間俄岡絶死云
呼作狭二下五六 所望ぬ
も ぬ
呼課朝野群載七 抑不論権勢庄園可勤之由依国司申請
古今三 元名 ふ〇六六九ノ

次第司 歌古今五 もみぢ 子ける人ふ
次第 奈ノ次オテ同リテ道ノ往来行列ノ定次ニヘシ〇嵯峨 六八 六五
舌利 狭一下 十二 毋代哥ニ とげふ毋
ふ〇枕 二人
仰 ふ〇床 四 近江 居
むと ふ
ふ 部屋 廿二 山 ふ
〇名義抄ニ 汗押拭ひつゝいそぎまかでぬ

〇狭一下 ふ
ふ〇金槐集 名
次第 枕十七 東 次第も ふ
ふ〇花下四十 仏名 呼 ふ
ふ 仰の仲忠行政仲
報〇揚下六十 ふ
ふ〇布引滝三 次

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79

物具装束抄
切付ケ号ニ下鞍ニ

山茱萸土匡房ナル山ヤ
云ニ堤百樋仲実ノ魚ヤ
トアリ

ゑくぼをとうろうそ〇字治四 十三 生ナカラ雉子羽ヲ
ムシリ拾シ名朱 つくりをゑぶうゑ〇字治四 十七 うゑ
んかのおこせもとゑ〇日九十六 そあるのゆふ
ぐれよ 〇日土佐 多武軍をうくる
まんとうそ我名をゑ書れをゑ
さぐく 古おもなし 我名のもみ
无名 万刈の玉ゐの芦をゑ
弟みなくゑ〇金松葉上 餝
ゑ〇夫八十二 夏鞍 傍 ゑ
ゑ〇夫十四 刈萱 匡房
ゑ〇成衰四十六 ゑ
さぐ 六六四学 ゑ
ゑ 鞍 於別所 寄方鈴ト
くゑ 鞍馬 則前及和名之大久良
ゑ〇指鞍上ニ 鞍馬具 鐙
ゑ〇成 云順抄十五ウ
ゑ 後鞘 いとゑ
ゑ 崩も 狭四中廿九 いとゑ

て裳ゐるつるゐ〇順抄十九オ小鳥賊子 細螺ニ太々美貝
似甲螺而細小口有白玉之 蓋者也
ゑ〇後古俳諧 耳ゐるの山ゐるそそぶ
舌つき 撰 源内侍 いるみるつきおひ
ゐそおきゐんとゐ牧ゐり〇順抄三オ病类 諢誕
新猿乐記 歷歯 諢誕也
ゑ〇沙夫廿六オ 接後ゑ ゑ
ゑ 桜 いゐ
ゑ
誉檀 名未出ヲん ゑ
舌ゐめぐり 字治八廿四 古
ツリトアルハ誤ナルヘシナメスリナルベシ
舌うち 字治一廿五 羊かゐて ゑ
ゑ 休瓦上ニ 石飛 ゐ
ゑ 紙 ゐ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用

しそゝろ[illegible] 本朝西傳 [illegible] 失[illegible]
[illegible] 光玉 [illegible] 合 [illegible] 我 [illegible]
しりの枕 [illegible]
しそゞろ 後葉 [illegible] ○落 [illegible] 本丁社
損 [illegible] ○同廿五 アコキヲハ入ヨリ物ヲキタシ [illegible]

しのふ

賎 夕負十八 [illegible]
布 しづ 万五 倭文 [illegible] ○梦語廿二
しづはた 後拾五 雑六 [illegible] △家抄 [illegible]
乱レタルヤウノ物也 △八雲 シツハタハヒトヘニ伝也 同拾六 続 [illegible] ○伊勢集 [illegible] ○
夫廿六 長哥 忠岑 [illegible]
しつはた 帯 武烈紀 鮪臣為影姫答哥 [illegible] 能之都波拕毛 [illegible] ○万十一 [illegible] 倭文旗帯 [illegible] ○正武云 此哥六五 家持トセリ ○同三 過勝鹿真間娘子墓山ア宿祢赤人 [illegible] 倭文幡の [illegible]
しつまる 夫十四 十九 [illegible] 秋風 [illegible]
しづかに 盛衰 十六 [illegible]

静 シツカ 宇津四 [illegible] ○玉葉廿 [illegible]
しづかに 帚 [illegible] △抄 此所ハコマカ也
しづり 綺語抄 [illegible]
しづり 落木 [illegible] ○同 [illegible] ○丹後 [illegible] 仲正 [illegible]
[illegible] 白妙の [illegible] △四条大納言哥枕 云木ニフリカヽリタル [illegible] 日 [illegible]
雪ノ落ルヲ云 △八雲 三八ウ シヅリ木ノ雪落也 △同四廿十 木ノ白クナリ雪落
しつらひ 東廿一 大三 [illegible] 猛座處ノ十リ [illegible] △三 サフラヒハ少将ノ
ツカツ人ノ居ル所ナルヘシ ○帚三 里 [illegible] 出入 [illegible]
玉四 [illegible] ○狭衣四 [illegible] ○落 [illegible] ○夕負廿三 [illegible] 菱 一 六丈
しつらひ 御座所也 ○帚廿五 [illegible] ○同 我方 [illegible] ○
蓬六 [illegible] 寝 [illegible] ○明 月 [illegible]
[illegible] ○東四九 三条 [illegible] ○楚王 夢五 [illegible] 松道
[illegible] ○松 [illegible] 枝九 正月 [illegible] 只十日 [illegible]
[illegible] 装束 [illegible]

国立国会図書館 タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

沉む相艹杉ん杜を北方歴もうくおろ
ろ〳〵伝経く○清おいうそのきろみ
杜ふふ病ゝそ学を道九○若紫六○
女郎贈大伴宿祢宿奈麿 帚りに一わもろ
云此号 六二廿 姫ノ題ニ載テ一ノ句万葉古点ト日ク
靜名万二卅大津皇子薨之後舎人等慟傷作哥
鎮目○つ○相十六 ○後撰三 伊勢○拾廿一 雨
ひて○多十六 ○拾廿六○若下十六○拾十三
狭三下 五十 十九 ○帚 廿 ○蛍 ○狭四下 廿○ 卅
空 ○胡蝶十五 柏木
空 ○帚 廿 ○蛍 ○狭四下 廿○ 卅
一万十七 廿 おお 屋沉 ○万七 廿 之都久 ○
四武云此号 六六 嬰 ○夫六杭 屋无名ニ載又○万七 廿
宣長云ニ沉ノ物ノ水中ニ見ユルヲ也万葉ニ多シ其哥ヒヲ考テ知ルヘシ杰ルヲ或ハ沉浮也云
或ハ沉ム也云ヒ皆ヒガ〻ヲ也万葉ニ希ニ沉トカケルハ借テカケル字也只沉ムノ一ナドヲシック云ル例ナシ
古今ノ哥ハ水ニ移レル影ヲ云リ

ふづ 鞍 一万五九 赤駒ふ志都久良 ○
ふづ 寸 菱立 ○帚 廿 ○蛍 ○狭四下 廿○ 卅
ふづく 一万十七 廿 おお 屋沉 ○万七 廿 之都久 ○
四武云此号 六六 嬰 ○夫六杭 屋无名ニ載又○万七 廿
宣長云ニ沉ノ物ノ水中ニ見ユルヲ也万葉ニ多シ其哥ヒヲ考テ知ルヘシ杰ルヲ或ハ沉浮也云
或ハ沉ム也云ヒ皆ヒガ〻ヲ也万葉ニ希ニ沉トカケルハ借テカケル字也只沉ムノ一ナドヲシック云ル例ナシ
古今ノ哥ハ水ニ移レル影ヲ云リ

ふづ 鞍 一万五九 赤駒ふ志都久良 ○
ふづ 寸 菱立 ○帚 廿 ○蛍 ○狭四下 廿○ 卅
ふづく 一万十七 廿 おお 屋沉 ○万七 廿 之都久 ○
四武云此号 六六 嬰 ○夫六杭 屋无名ニ載又○万七 廿
宣長云ニ沉ノ物ノ水中ニ見ユルヲ也万葉ニ多シ其哥ヒヲ考テ知ルヘシ杰ルヲ或ハ沉浮也云
或ハ沉ム也云ヒ皆ヒガ〻ヲ也万葉ニ希ニ沉トカケルハ借テカケル字也只沉ムノ一ナドヲシック云ル例ナシ
古今ノ哥ハ水ニ移レル影ヲ云リ

ふづ 鞍 一万五九 赤駒ふ志都久良 ○
ふづ 寸 菱立 ○帚 廿 ○蛍 ○狭四下 廿○ 卅
ふづく 一万十七 廿 おお 屋沉 ○万七 廿 之都久 ○
四武云此号 六六 嬰 ○夫六杭 屋无名ニ載又○万七 廿
宣長云ニ沉ノ物ノ水中ニ見ユルヲ也万葉ニ多シ其哥ヒヲ考テ知ルヘシ杰ルヲ或ハ沉浮也云
或ハ沉ム也云ヒ皆ヒガ〻ヲ也万葉ニ希ニ沉トカケルハ借テカケル字也只沉ムノ一ナドヲシック云ル例ナシ
古今ノ哥ハ水ニ移レル影ヲ云リ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

しな 帚六 そのしなゝゝかはりてとにはおとさるゝ ○紅葉十 いろいろに
なりける 三三尺 かはりてあらはる しなかはりて
しなし 東四九 品の高きも 品高キ品也 品々ニ分カラスハ上品ナラス伝ヲ也
しなじな 孝徳紀六 賜食封大夫以上各有差 降以布帛賜官人百姓有差 徒然上
しなじなさけあるも まさりけり
指南 文選一東京賦幸見指南於吾子
しなとの風 槿六 源氏 しなとの風のしきりに吹て ○延喜式 六月晦日 祓廿四
紫河羅 しなとの風の天の八重雲を吹放つ事の如く
科戸乃風乃天八重雲乎吹放事乃如久
信濃梨子 蔵中十五 信濃なし
しなさき 若下七 人のすゝろに思ひ立て
しなやか 浮廿万
しな心 若上七七
しなてる 夫一 十五 若菜後 仲実朝臣
△紫 沖云 万十 夏草乃思志萎而 △弟云文選 長袖飄飄
○正武云此哥 六五廿 夜鴉 無名 ○風雅恋四 無名
しのゝめ 帚四九 いとゝしのゝめ
しのゝめ 枕二
しのゝめ 東四九 ○狭一上四五車
円 六六四 浮廿二馬 ○円下廿八
しのゝめ 治十七
しのぶ 蔵大十七
しのひ 催馬楽 青柳 三尺六寸計 ○枕三十一 ○栄花
しのすゝき
しの竹 桐廿二 ○若菜廿七 ○狭二上廿 大将の文 頼三三後二 文詞
しのぶ 清少納言記
六一 十九 夏風 無名 ○新古夏 無名 ○正武云此
菅万十一 二モ 哉 ○明廿八 ○円 四十 十一
しのぶ世 槿三

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

しらぬ国 万十五 しらぬ国に よそにのみあれ○千載 旅人のあまたの道のしらぬ
国に住みける康頼○正武業万一ウ しらぬ国は旅にも不知国よりそむけり
しらぬ不 千 十六 しらぬ不にすまひて
しらが 万四廿六オ 娘子报贈佐伯宿祢赤麿 ちはやぶる神をもおそれ 白髪
おひにけり○正武業此返哥赤麿 白髪おひにけりをは 見てもなほ 求めての
かむ 後冬々黄備 しらかのかみと憎ましく なりけり
しらがみ 竹川 六 しらがのふつにひとつあるもの しらかみすまふ○続四八 一とまたふく
しらかみとも 枕四十五廿三 常陸ノスガ しらかみや あらく
しらがす 十訓 三一 人としらがすまさず
しらかされ 枕二卅オ すきまあれ △抄日重八四月 朔日更衣ノ衣ナルニ八月二八ツ
キナシト也○新路集上十二 りへかさいられも衣の しらさき○あらためし ふりつくしつん○堀百廿六 更衣
後拾 夏衣 しらかさね ○ 人に ○長秋詠藻上後集 夏衣 表の
しら ○夫七十二 夏衣
みちのく 新古今 六条内大
しら組 細ふ
白根 六 六卅 無名○貫之集 五六オ○新千五一 貫之 加之集 茫 他 た朝
のしらせやけしき
しらめ
しら虫 四
しらこし

しらす 後撰上十九 しらずとて 佛ぞ ○七本玉詞十四
しらすぞ ○
とまりのみ 万葉に 第二 見る
しらげ 土佐 ○沙石
しらけて 狐ぶ
しらさぞく 和花 廿六
しらげ 吹上 ○金葉雑上
しらきぬ 行幸 廿三 十四 △細 色也△
河紫ノシラミ黄ハミタル色紋 みトカキタル本モアリ△師 紫ノ色ノシラミタル也 アラレチハツワ
ニミアラレノ文也
しら目 竹取下 三オ 十二
目
しらくま 貫之集七 ある 冬
しら
しら ○蜻日二 屏風ノ哥ヨメトニハレテ
とハ△正武業古俳諧 ○落一
しら人 着以十二 廿三 ウニ △俗ニ素人ト云詞ハ是之ナルベシ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

年比の妹などの事はあらぬふうにもてなしけるを〔?〕あはれとて何様にも 思ひたる 進退ふ

しんでん しむでむ〔?〕

寝殿 源桐 左門は寝殿の広くおもしろく作りて東の対にすみ給ふに西の対は大いなる家の中

にあるなり〔?〕北のかたの住まひなりけり〔?〕 ○未 十五 大一 しんでん小島に〔?〕 [illegible]

ことさらに〔?〕ものしたまふ〔?〕 御殿 ○蓬 六 しんでん [illegible]

しんごん ミムゴム

真言 蔭 廿二 俊蔭 詞 しんごんの法をならひてもてあそびたまひける〔?〕

しんじやう シムシヤウ

身上 無名抄上 さる 君に〔?〕 かかる事〔?〕 〔かたかみ〕 しんじやう みづからがおのがすみて 小神〔?〕 [illegible]

しんじ

新司 後雑一 忠房 朝臣 〔?〕 新司 〔?〕 △受領ハ四年其

国ヲ治メテ代ルニ其代ニ来ル国司ヲ新司ト云也 ○朝野群載 廿二 献新司拝昏 云々 謹々

上新司政所新司預料物事 云々

しんじ シンジ

進士 枕 一 ハウ 十 土 〔?〕 千定国が〔?〕 [illegible]

進士 二 十 八 リヌ

後 薩 一 ハウ 俊蔭

山 武 云 俊 蔭 一 ハウ 俊蔭

つくも〔?〕 [illegible] ○処女 五十 五十 〔?〕 大学〔?〕 擬生 [illegible]

もにならひ〔?〕 △細注 委悉 △嵯峨 九五 文 [illegible]

しんじつ

真実 俊蔭 下 十七 十九 [illegible]

○繁 諸 四十 〔?〕 [illegible] ○蓬 下 十五 [illegible]

[illegible] 怪

さるとて 笑話 ○大鏡 下 四十六 百七十二 [illegible]

法華 [illegible] ○宝塔品 四十七 釈迦牟尼世尊如所説者皆是

真実 ○東 廿 [illegible]

[illegible] ○国上 五十七 [illegible]

しんず シムズ

信ず 蜻蛉 薫 詞 [illegible]

[illegible] ○明 九 十三 詞 [illegible] ○帚 十七 将中 [illegible]

[illegible] ○日 七ウ [illegible]

しんく

真句 法然 八十 [illegible] 寺法師と社申さめ

[illegible]

しんし

[illegible] 守可考 拾玉 四 四十 [illegible] 藍 [illegible]

しめり〔?〕

しめ 方丈記 [illegible]

[illegible] 空 九 九十 [illegible] ○葉 十五 [illegible]

[illegible] ○円 十九 [illegible]

[illegible] ○蔭 二 [illegible]

国上 二 十 土 [illegible]

枕 四 十 一 [illegible] ○土佐 廿 正月 [illegible] 春の [illegible]

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

かきそへし歌人の家の錦とはなるらん　○幻廿二　みつしまの玉ひかる君をきて（？）
しひづま　長秋詠草中四　しひつまおもひおこせしやまひにふしてわか（？）もへ　○弐統拾遺　こと
ありやなしさらはしのひのつまよりとより
しひ事　続六五　かゝるしひことは山里のしのふなりさへ思はれてしのひかるらし
しきたへの　○狭四下廿九　まつかはしひてのしのひのとしのはなとりとりのなかれてよりかたらん
しひ人　国中一　わくしひ人さけたまひてくるとみのおもふらくすさなり
しき中　国中四七　ならのみやこは...しきて　山の中わけいるさの月の詩書にいはしきふ
まそ　なつかしきかなてちの春の花のしきなみにそてしきなからあ（？）くるまさしく
しきしきせ　若下十九　せうそこしておこせたり
しく　景行紀九　重浪（シケナミ）○菅万　頻浪○古雑下　古今序　しきなみ　此ていへ人との中に波の
さわきなれてしく　める○後秋中　文屋康秀　白露は秋のちきりしくしく秋の野にしつめるそと
めてきそれ△契云重ナリ　頻ル也
しく　泉式集下　みな月のしもしかくれは我床は露れもとしのはにしけしは○千載夫上
志加へく　玉十八　しきみあまたなるにしきみならへてしくいろすものもとして○東十八 卅三
接頭語ナト　なるしくもなりいつもかりまはゝみのなさくてゆくの雪の
厨子二階　なるに怪とにしくくへくろをかりそいそけか
時なとうち　拾遺一　无名○六一四　睍る夫之○夫之集遺四九　おほくあまたなりとり我か身は
しかれこゝの我のみそする○風雅上　泉式ア　りの　かくはそこなれはまされかくへかす
かれしかいつもせしと
しくし　万廿四　奥山のはなの　かとや之久々々まみにしひ　わかるらん△

正（？）武業世哥　六六ウ廿五　无名ニ載テ三ノ句名はいらヤトアリ　水戸本万葉三八其々等（ソノゴトヤ）也トアリ○夫四四ウ　桜の辺赤人
春日野のゝかすみの山の桜はいろまさるらん○正業世哥万八ウ十七ニ出ル右日人○右京大夫集六十二ウ　詞書
やよひの昔年りはいへるかけし人（蔵人大夫業盛）の水の泡と...日ころはいこし　ほとゝきすのなくて
しく〳〵るよりおもへるそろう
しやう　宇治二廿六ウ　めのはのくかはりおもてなつくしとやかくそみつてさきあひわなけるの
せは○同九十六ウ　しやうひなきんとかうおもと○同十七ウ　しやうひ切大みなひなん○同十二ウ廿七　しやう
すなくそけるくかくさまて　○平語二　西光被斬条　しやうかくひ　たるあるるかひるの○盛衰五
もろん此はさ義く　家ねそやはさしくいをあやる○宇治十二ウ廿五　せんなや尻やなおけて
舎利弗　続古　みなやにつみの法ほとのあとむたる時は舎利弗のさをえんかかりける
しやう（中品（？））　新註　しやうおものとるうなけましなりすさあやると　△細門ノ鑰ノ朽テサビ付タルナリ
正日　幻廿五　なる正日なとみのゝかはなまめかして　△細総ノ八正日ト八四十九日ナ云リコニ八周忌ナ云
リ△真淵云落窪物語ニ落クホノ君父ノ喪ノ畋後ノ忌廿日ニ帰リ玉ハント夫君ノ方ヨリ聞エ玉ヘト四十九日
迄大ハセシト見ユコレハ法古又ハ廿日ニ終リテ四十九日ナ正日伝ルニヤ　又若八十月廿日余リノ其日迄伝ニヤ伝聞
エ○葵廿二　浄土のまたと正日とは　我けりおいけ○浅緑十二ウ　なきは正日にて
浄土　拾四一方より浄土のこちすゐるものを本様そなん　此おもろうけれ○拾遺賀
无名　恋すれは仏もなそいまさは　我を浄土に行らせるる
浄土の行く　耶一　卅三
常燈　枕六十七ノ泊瀬ノ所　常燈あはいうしそゆるえ
唱哥　狭三上廿一ウ九　唱哥すれはそやされく
正躰なし　抄石三　兼盛の仁を様て持ちし　律さ...もといへし時にのこりけるにや

正体[illegible]

上臈 禁秘下三 上臈不謂是非二三位典侍号上臈、着赤。青色候御陪膳也不補此等職
聴色大臣女或大臣孫也孫猶或不聴或聴之 同四 小上臈 不謂善悪公卿女号小
上臈着織物并表着也侍臣女依レ仮令公達女勿論諸大夫公卿孫或為小上臈或為
中臈也可依父官欤僧女仮令俗姓生公達者公卿遠多為小上臈

上官 枕八 廿三 [illegible]

没官 浮世 廿三 [illegible]

常不殺浄 [illegible]

生気 拾芥抄下末四五

公事根元

上戸 古事談一 於鳥羽院御前有酒宴之日宰相中将信道為上戸而一両度ノ後固辞

浄衣 更科五九 [illegible] ○盛衰記廿七 [illegible] ○

玉 徒然十二 [illegible] ○[illegible]三 [illegible]

[illegible] ○和事始 二 普本朝士庶人ノ官ナキ者ノ礼服、立烏帽子浄衣ヲ用 浄衣ハ今ノ白帳ナリ 浄衣ノ下ニ白キ下ガサ

上馬 処女塚 大三 [illegible] ○[illegible] 着セリ

上め [illegible]

障子 古事談六 隔二明障子一謁

上卿 玉葉 神祇 四月八日松尾祭 [illegible]

[illegible]

精進蔵 上四九 [illegible] ○枕 一 [illegible]

[illegible]

尚歯会 続世継 六 六 [illegible] ○百錬抄四 安和二年三月十三日大納言在衡卿於粟田山荘設尚歯会希
代勝事也

赦免 後撰十 六十二 薫阜傳先遣使長安求之赦免

上手 帚木 [illegible] ○[illegible] ○

竹川 廿四 [illegible] ○帚 廿四 [illegible] ○狭上 廿五

[illegible] 国中 七九 撲忠 中納言 [illegible] ○松風 十九 中 [illegible]

[illegible] ○紫式部集

[illegible]

[illegible] ○桐四 [illegible]

[illegible] 真淵云今昔物語古本ニ貴人ヲ上衆賤ヲ下衆ト称ノ俗語也○[illegible] 廿六 [illegible]

[illegible]

縄床 浮世百五十七 [illegible]

[illegible] 拾雑 二 [illegible] ○正武云

新古今 一 [illegible]

[illegible] 七十九 [illegible]

[illegible]

志ゐてらし夫四ウ花 土佐守源小宰相 はるかけてひし山 わすれ
代 亥三長方 志ゐてらし ひとりみのうらのあまもこ
しゆく 夫廿三ウ舟あり 夏まくれあめをこめて
ゆふ

志ゐてらし 中務集 うちわたす浪のまをはりもなく
四うもこころはのまをはりもなくめうし 志ゐてらし
志ゐて集 順抄西廿 経綜 佳恵 綜也 之介以度〇
五十足 なつふ〇 夫廿三ウ 志ゐてらし
島めぐり 浦島子 実方集 内の如き
とふ 島めぐりふねをぬくけな
〇泉式ア集 夫廿八ウ 鞭草 非礼伯有仲
亥〇表採式ヲ 若 詠菓 脱 ミマヒコ伝
なり 五二 〇狭三上廿九 大和伯 お
くぼそ 〇中務集廿七

志げ木枯 十七 ものうきふ
ふ 土佐守源

集 拾四十オ
ものあはれ 〇拾四 さくらの
ものあはれ 集 〇浮廿 都
都 若下十二 物性 物
万葉集 志ゐてらし
十二ゐ 咸亨四十三十九 ゐてらし

志ゐてらし 万三廿 いろといふ
志ひ 若上四十九 後
志げり 濱松四廿東 ヨリ
志げり寸 蜻日三 コモリシ女君心
志げん 濱松三廿
志ゐてらし 経 拾六ウ
志げる

志げる

集 拾四十オ
ものあはれ 〇拾四 さくらの
ものあはれ 集 〇浮廿 都
都 若下十二 物性 物
万葉集 志ゐてらし
十二ゐ 咸亨四十三十九 ゐてらし

志ゐてらし 万三廿 いろといふ
志ひ 若上四十九 後
志げり 濱松四廿東 ヨリ
志げり寸 蜻日三 コモリシ女君心
志げん 濱松三廿
志ゐてらし 経 拾六ウ
志げる

志げる 清輔集 あまの苅もに 父母 礼也 思ふを
志ゐてらし

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

志集免明十三種のごとくひらもへきそ所をもの
あつめそう〇浮六四つもく牧る月をそくいうれ
志のつそ　そ治四十九甚如んとそる空ふもあるそ
おそるの空切をていうそうんやそくとをめ
〇月七十六日そくよおそものまい湖山絶きまひてそ
志ゑふ　第弦八十号　酒めみあそひて
志のやまりの幸九そいけふそ
志のやもち　落一いそそるそ
志あくは四一くもの悪逃のそくそ抜き投心い
子細　そ治五八　修そ子細をそ修そ
んとそ〇帚花　そるこそ　ねんそ酒そるりのい
当拳大綱何必　太子　細〇朝野群載　二十　大宋国商客事　云ニ任先例子細言上如件
志ゑわぎ　松平修そるそ　摸九　瀬
そくおそうそ　めそくそもへい
志そうそ　並埔集十三未申そ　陸奥九
治承廿　そ届けそくそ　芳人八十七人　仁寿元ふまるへきを大
届けの　修ふそうそ　そ畏そきそ
志そま　帚サもそくへのそうもんてくそもそ
あそくそあるそそそをふへまい〇岩木　並　おめ
志そ寸　涼去いそそくそ　そ

沙石三下 世ノ常ノ ゼイニハナド色代スルヿニ コソ侍ルニ
梁塵秘抄口傳集 又承ハラント申ノカク 感シ申ヨシ色代メ ホメ入タル

しきだい 着聞十六ウ六 おりふしもさぶらはで式代しつるかなと○盛衰十七 いかでかうちふさる
きぞとてへつらひけるかと色代申されけれど入道きこえもなかりければ○沙石七上十七ウ 七十と
いふ時を六十といへば翁おもひにちかくかくいひける人の事なり色代めかして
けるかたちなどその縁のあかちそかくいたくとへしかつそ色かいはなつ
との人也○同七下 ある人妻をおくりけるにあるかたのけりはべり色代するかはとすなるを
既出 いでゝかく語る 事なり すゝめのこふをりて なれていへきよし
らけしそ○盛衰三 やがて人に侍るにいてめでたきを色代して○同九十 一二の宮
あにくかうかけんとてそくなる色代ありし△追従十トモ称スベテハ礼ナス心ニ用テヤリ
しきだいなみ 枕二十四ウ七 しきだみたるさまなる車よりをにかくいでゝまかる △傍注
敷並也物ナシキナラベタルヤウニ車ノツドヒシト也○同五十六ウ六 庭ちかくの二三 庭や何やと 植木 ある
さぶらひしところみそなひてみちとはなきかどらへつ △傍注 重波也○蜻日二 しきなみの あかいかなう
きかのみ車もしかりみるたりきいしきなみにぬせてるこちふかるしとひけるしたし
うしもあり○東猿楽記 艶昏来如鋪波○苔菜本ニ五 松山の あゝ敷なみ おもかげの寸恋
しきさるみるさもるみそろ○中廿五ウ よそにのみ 過行の浦 かよひける 恋に 越路
そちもつかりける○同 同○夫廿三ウ十五 海 かよひつゝありれ 浦の松原小 ことゝき
かなみそたちかりける○景行紀 是神風伊勢国則常世之浪重波帰国也
しきなみ 鳴此かなわきに古今十五 無名 しきなみの しきなみのかはるなりこのもとかのほゝにぬ かあおし
しきなみ 耨 新猿楽記 種ミキ 菑 苗代耕作播殖之営
播ミキ 万廿ウ四 東山の こきみにもの 其等也 しきしまのいたるなるかるらん ○正云此哥ノ落文 ひ古
上ウサシクノ条ニ云○狭四上十二ウ わすれ 常にそにあのけなれ おもの あれ うちあける

拾遺賀 天暦ノ帝四十 ニナリオハシマシヽニヽ 其スハマノ敷物ニアヤタノ 哥芦手ニカケル
しきみ○正武云順抄十二ウ十四 閾 ホ雅注云閾音域門限也兼名苑云閾一名閫 苦本反
和名之岐美俗云度之岐美
しきみ 画十六ウ二 しきみれ 弟子かれまとりけるかみの 戸のはいれたる
しきし 抄十七ウ十 ひるしてさしをとる○栲廿 白しきしのかはいとゝかく○花上二四五
中納言の敷紙ゆへのみせいにたてまみへいとゝしきいひしきま たのちの
常に ○かはるに出されけり○枕 からみをといへてつりの敷ゆへるこ○明月記 文暦
二年五月廿七日嵯峨中院障子色紙形故予可書之旨彼入道懇切也○風雅雑下 加茂
縄保云ヽ 各よみける哥を色紙にかきたくへるし中侍られ○朗詠 青苔色紙数行書
しきじ 職事 狭一上 蔵司 職事どもめしまめて○続紀廿一三 百官職事已上
しきしま 島 哥の日集二十四ウ 四季恋 雑ノ序 しきしまの言の葉の社の心の 林竹かすみ しきしまもみ
けれど○御製三 さかきはりいるかいひけりめそつしてまきかや なかるなる まなりさいすかさひ
すみかなともしかりそりける
しきしま 枕六十六ウ十七 俱 舎 頌 あらぬ我おもひいひけるにはかくしけにおそれてかりてれ
しきみして 枕六
式子 荻 序 宮ゑ山の僧 無 採 といひたるも 云ヽ 聞へし宮山式を覚れりける
主
自讃 着 文十六ウ十九 やうとしてまいよとこのしぬ庵さうさといふにつゝからそおそて山ら
へと自讃しけれど
しきて 続紀廿五ウ廿一 施高叡法師封三十戸優宿徳也○後拾十五ウ九 つきけにきそろ
このかたこそゆゝくもあるそいとしきにおりてなかひとさういそん子そさるひ

語へり○橋姫 きのふこそ[illegible]僧都僧正のまへ[illegible]○手習[illegible]
[illegible]○椎下 六八 戸をうち[illegible]
九帖の[illegible]○国上 四九 [illegible]
[illegible]
[illegible] 円五五 [illegible]
[illegible]
嘆詠 七八 [illegible]
忠[illegible]
[illegible]
[illegible]○三実 廿五四 延 諸宗高徳僧百人以備威儀○浜居
武帝紀 武帝自集置諫大夫皆名儒宿徳
[illegible]孝徳紀 一ウ 古人大兄避座逡巡 シリソキメクリ
熟未盛衰 十二 十七 七条[illegible] 供御[illegible]熟米[illegible]
[illegible]
術なし 山槐記五 予衰老病後雖役舛無術○古事談一 此事者理非是然候未断
之条無術事候也○御記 治承四年四月廿三日 云々蔵人邦隆雖解 朝臺盤不昇
窮窟无術之故也
主君 枕土
種根盛衰 四二 師光ハ阿波[illegible]根[illegible]○正武案詹者本乎語一鶴
川合戦条 師先ハ阿波国此在廳成景ハ京此者熟根賤き下﨟也 斎見一撿校本

襲根 トアリ
注連 シメ 葵 十三 [illegible]○右京大夫集 十五 [illegible]
○画 十五 [illegible]○蜻日八 廿五 [illegible]
[illegible]
[illegible]○讃岐典侍 上 无名 [illegible]
しめ縄 金葉 春 経信 [illegible] ○月 国基
[illegible] ○新古今 後故 小山田[illegible]
しめ縄の[illegible]
しめ[illegible] 万七 卅三 无名 拾雑 下 人丸 [illegible]標 シメ 十八 結[illegible]
○正云世哥 六 六 廿六 オ 浅茅 无名 二 哉○万 二 廿三 ウ 天皇大殯之時 額田王 [illegible]
[illegible]標結[illegible]○円 廿四 円眠 石川夫人 [illegible] 山に標結[illegible]
[illegible]○正云世哥 六 四 廿九 悲 无名 二 哉○円 三 廿四 金明軍 印結[illegible]小松[illegible]我
松○正云世哥 六 五 廿六 注連 无名 二 哉○夫 四 廿二 [illegible] 万代[illegible]山の[illegible]
桜[illegible]○万七 廿二 无名[illegible]印結○正云世哥 六 五 廿三 玉
タスキ 无名 二 哉○伊勢集[illegible]
しめ[illegible] 鈴虫 スムシ 十五 [illegible] ○細形ナカヘ 玉ハ久尼 漸々ニ心 ニ ニ 又玉ノ下也○
掛 ウ 十五 [illegible] 涼ノウ ツリガ [illegible]
[illegible] 玉 廿六 [illegible]
入 御手洗 一 廿七 [illegible]
[illegible]○正武 云 是ハ搆改松殿ヲサメ申セシ也

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

旬百錬四四九長 徂三年十月一日旬出御南殿之間太宰府飛駅到来 ○年中行事
哥合 殿中将 うち人のつかふる神のまへにしめはへて 旬とかく
すべらぎのみよにかはりし玉はしの 一つもれ旬のまかそへたりしをみのかみよりける
政所にはさるへきしるしのおほくなりなむ 旬にしらせ給ふ あるのみ高はしくれまことも
ておきめて 車寄に さしもあさましき 旬のいとかうしていみしかうきそ改
事もなくしるし 万機の旬とやうやく 旬には ゆゝしきもちてかんらち
めにたへてつかまつらせてさるへきことあるをや
しめはへぬ 画十九 しめのきはにもあらぬにてそ非代のまし そぞおぼつかなき ○古今著聞集
しめはへて いつとなく寸桜をしめなむと あはれなるも
しめはへぬ 往蓮法師集 しめおかるへしとけしきこそ 大かたはやくさ給ひし○
後撰集 ちきりおきしきはなれにき しめのにもあそて かけてやもあれて
しめゆひ 拾四九 かりしめのはしのみなしやをるしそで ○画十五 しめのかみれ
そのうちに せ寸 ○蜻蛉八廿五 み垣を挟こ 葵草 ありとそ
しめもり 梅枝六 松にくん △注春雨ノ名也 ○若下廿 逢坂のせきもあるらんに ○椎十四 しめ
りておいのいとくもうしもりの ことあるをあらはれ 後裏 ○落窪廿四 ○赤川七
○画二 ○総五四 ○処女四六 ○梅枝十九 ○明六 ○椎廿 ○胡蝶八 ○画六 ○玉村菊十三 △簗云非代下 哀
しめやかに ○帚三 しめやかなる ○夕顔廿 ○処廿三 ○東四 ○子 十九 ○同 六六
しめし 順集廿二 しめ 菊の しめ ○椎四
きはめすなは ○葉上五四 しめ
総十

正武云拾玉三
イカニセムシソリノチリチ
払フニモシミシノ数アホ
ノコルラム

示寸 万三卅 高市連黒人 我妹子にわかこひゆかはしのの 何時可将示(イツカシメサム) ○正
武云 此哥六二ウ 山辺人三哉 ○月卅三 赤人 墟千 蘆刈りつめるのいもがたらちねのやしきをしめそしらずしらせて行を
しめさむ ○玉葉 久寿 ○内
明治 ○繚紀廿八 大神乃慈倫示給幣流
しみ 拾四三 しみにこそ 古あとの ○新六
廿 ○正武案順抄十九ウ
衣魚云ミ 和名之美 云ミ衣書中自生虫也 ○字鏡七十三 蟫之弥
しみ 新十 ○拾玉一
しむ
清水 古大哥所 桜井の ○拾秋要之 逢坂
のしみつ 月の ○正武案一万一卅四 蘆京文徳四
あはれ ○後
恋四 无名 ○松風 十六
しみこほる 狭四中廿二
しみつく 未廿六
○躬恒集
○正武案此哥古恋三二出テ同人二ノ句 トアリ 又六一四ウ 霜无名同廿五 人不知无名三載
○東六十
しみて 貫之集 ○夜鶴一十五

しみゝ　万三 内日さす京思美弥に里家はさはにあれども〇同土枝ありたへる四美三
小角のこも我行路の佳木ありて四美見にはなれてもならむ　正武云卅三六二十七枝使无名〇夫卅五枝使无名ニ哉〇同枝あまり
芦荷刈りて四美見には妹かにあらんすゝ　〇正武云卅三六三卅一舟无名ニ哉〇同十七枝　ほにいでゝ
比比しげ繁本来りともしみゝのことは　〇夫七枝　子為　ゝにゝ　相府にも
しゝせえ事の神と思ふみやの鬼の　〇菰本来それ　ゆかりんちかの山の杉の
しみゝにしみゝ　〇山家集下　をとくさしみゝにしくしくきのちる
あはれくさし我師の山〇壬生ニ系上い千井田の名の下にし者へゆるのりうめるかちく
きらし〇堀百廿六　雅仲　なにぬ　けみふおりふ白都を我ゝ路をぬらす社のれ〇
ゆ百杜避暑 後拾水いかしうみしみゝ花くさゆりのは井の星△正武案
卅三夫九枕 納涼ニ哉
しみゝ　徒折十丸ゆはしみゝの目の暮もつきしみゝにしくしくやみ
進士 嶋郡 九五 文かきあかきりになる人 廿人こさうしもあり
しゝ　着肉 十九 ひとつくさまなれすえぬそはひ恐しつきぬえをとしそ
れ〇順抄三十九 肉 膜理 附 和名之々肌膚之肉也 腠 和名之々和岐
しゞかみ　乃季廿三 ゆはは若がれをいとうよう　しゞみよりは
涙つり 枕三 にしゝみる姫ちはさはなけるる
しゞむ　玉ノ飾十七 我法師もしゞまりて心にもさはよ
四十九日 夕日四九 彼人の四十九日にとひそれの法花参るそ　〇接　和名スケミ
牧原の四十なとまりおのなしゝみに身くなくらもりのものともいるも
しゞ庭　禁秘中ニ志々良ノ錬　変

しゞめ　俗ニチヾメ伝語〇落一　小方なるゆかし佐世くちゝしゞめなる〇の本せゝかい山にしてのかひとも
いしゝ見かそしてとにしくそてひおれまにめとあん根しこれら　〇不見果多　人かくしぬ
の積のかけの人ゝしめ世の年をまゝ後ニ乃この積のかけ　都をのあなそ〇とゝゝあ後と
獅子の牡中の虫　野守鏡序　源宮序ニ　文仏する　我法ゝ我まかあれともいて
獅子の牡の中の虫の獅子をもしゝゝそくれもの後くり
しゞ肉　未枯　欲もさひしらくあまはちけあらんおのかひそひさいもあ〇みしかゝ後つ
てともあれるにうまうに　こゝゝろゝ　りかいるあふゝ△鄰云无言進退ハ両説ノ中无言ヲ用ヘ
ニ其故ハ小侍従カ返哥ニ其澄明カ也日本紀ニ才逡進退ヲシヾマトハ訓タレモシヾマト点シタル所ナ
ケレハ其義カハレリ△雅望案シヾマトハ口ヲシヾメ居ルヨリ云タルナルベシ〇拾玉一七うかゝりりしさ
しゞまくもゝ山ゆとゝそゝまのりもろもゝ　こゝれて
しゞまひ　垂仁紀六才 俯仰（フシアフギ）咽（ムセビ）進退（シヾヒテ）而血ニ泣（イザツ）〇神武紀ニ本山中嶮絶无ニ復可ニ行之路ニ乃
捷遑（シヾマヒ）不知其ノ所ニ跋渉〇記下 進趄〇正武云記傳卅六ウ卅九 趄ハ退ノ誤伝ハレタリ考ヘ見ルヘシ
しゞからの　若紫十一オ 瘧病ハ所　しゞゝゝゝしきゆけいうそて　佐々と〇梁塵秘抄口傳集十
おもゝゝちはなひそ　しゞしゝてあれるは
慈悲　月宴三 貞信公（イマヅ）　人めともに慈悲あなはゆ序く世なかれたきを立へにしい世の人いと
しゞく信きか〇坊盆　人れなおしけさんそて仏れもしゝ方　法いは慈悲をもかくそて
にくうに社いはるれともおひほけ後つひひそのいゝ路
しゞゝまる　ゆ後のゝしひまにしひれるを後そ〇盛
後れへにさせ路て〇順抄十七オニ粃　和名之比奈世 穀実但有皮而无米也△蝦蛦（エソ）人ノ語
空腹ヲシヘハラ　俗語ニ　三十ビ　菓　　仰

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

しびら 赤廿三 オ三 いときよげなる女房白きすゞしのひとへしびらひきかけたるかたはらにあるをけはひしびら
ひきかけたる程もなきに○夕頁八 しびらあかきにひきかけて○浮四十 何ぞ様も悪きしびら
着たりしを○枕十廿ウ 裳は しびら△注ニ裳ノコト云ニ褶裳(ミヒラモ)とも裳ノ一ヤウト見エタリ
推なべて 万十四廿四ウ わがせこがしびらもむけるその四比乃故夜提おもひは多家波
自△万ナルハ東哥ナレバ小枝ナコヤテト横ナマレル也○正武云有人云家ハ衾ノ誤ナラム伝リ又云六六廿二ウ推
无名ニ此哥ノ五ノ句見ゆ なまし哉○夫廿九 オ廿 摂家宗丙太ト もろこしのしびらのとのみそのさかし経
といへる人のあはれともいはや○同 会 六百首 那順 山人の前にながめはうへなる 様のかはりぬ
しばらくあり[illegible]
しのぶくち 拾遺雑十七 隠侍女ぶしのぶするに局あるにひとりしにてありけるにおはしましけるに平治十七件
此女房のもとにこもりて侍けるに
しひしば 万葉集廿二 しひしばにやとりて侍りけるに女房たちまうてける
しひしばの袖推紫ハ喪服ノ深中也○後拾哀傷 一条院御製 なりにけるしとや
おもひかへる人の喪に侍りける ありしにもあらぬ袖のしひしばのいろ
の袖かはりてのかたみにおもひ○月詣集中納言 院人のもとに侍りけるに
るらん様紫の袖
しつし 帚廿九 しつしやかにいそぎかくて日本御んと侍りける○順十四 ありてしかるへし 局にさふ
ひ○浮 しりのくだりに思ひそめて中にしはやされるを すかさきものかる
しとくべ 蓬廿四 しつへくるを出てたまさかにいまは○宿木十 何事もしつへしかしつぶら
柏十
はしのめくゞ
しまくらしは 蜻四四 年ごろに何かを色々し給へり

しとくち 順抄三廿三 瘃 陟玉反和名比美辨色立成云之毛久知手足中寒作瘡也
○蜻日五 オ六 あるくべきあり 大なかりしくしとくちもしるかはもとなく ほどりかし侍りしも
しりつ 閣千載 寛 羈夏仲正 しりつかすをなり 此相にえたて侍る 所にかさなりて局みの
しもつあさ 未廿二 オ廿一 こときくしとなさふ
しもや 屋 帚廿九 オ二 ころものあふれてかかる 備注シモ屋ハ雑舎ナド也○松三 しものやはりぞ
しもの屋 頭中 おほかたりなる しものそばにある○蓬廿一 しりのかたのあはれなりけり 物はありける
下つかさ 司 名 五廿三 もつかさしきしもつかさ△河諸大夫也
しもびと 人 夕 見 廿五 それなるけるしもびとの清しそる○須十七 何くれにおはしましなしの
もの名和 侍り○清廿五 人あはれにもし人 格十五 しもつかさ もとて 殿のもとにより参り
しやくせく 枕九
しやうぶ 胡 蝶
しやうしし 若紫四四 只ほかに侍る 時のおほやけにしもすぐれて○夢第十 いへらひらかし
しきりくさいかのにまゐりたり○東廿六 前にてして誰ゆかしや しらぬぞ さるべかる
よの中なほひかりてうまし

837
13
79

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用

837
79

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79